会長のページ　医政について ……河野　雅行　3
日州医談　病床機能報告制度と地域医療ビジョンについて ……池井　義彦　4
随　　筆　ひとは一つで等しいもの(地名考察の試み) ……小谷　幸生　6
エコー・リレー(471) ……川越　富夫，吉見　雅博　14
メディアの目　「地元のチーム」を応援したい ……奥野　慶太　18
宮崎大学医学部だより（附属病院医療情報部） ……山﨑　友義　19
国公立病院だより（日南市立中部病院） ……竹中　晃司　20
専門分科医会だより（皮膚科医会） ……成田　博実　22
診療メモ　糖尿病治療薬SGLT2阻害薬について ……光川　知宏　66

各郡市医師会だより(南那珂医師会，西諸医師会) …… 10
あなたできますか？(平成25年度医師国家試験問題より) …… 15
宮崎県感染症発生動向 …… 16
第１回各郡市医師会長協議会 …… 23
ベストセラー …… 24
九州医師会連合会第343回常任委員会 …… 25
第64回全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会 …… 26
日医インターネットニュースから …… 28
薬事情報センターだより(330)　新薬紹介(その73) …… 30
理 事 会 日 誌 …… 32
県 医 の 動 き …… 38
追悼のことば …… 40
会員の異動・変更報告 …… 42
ドクターバンク情報 …… 45
行　事　予　定 …… 49
医学会・講演会・日医生涯教育講座認定学会 …… 53
宮大医学部学生のページ(第10回清花祭) …… 68
あ　と　が　き …… 72

お知らせ　「新春随想」原稿募集 …… 9
平成26年度日本医師会認定医療秘書養成制度卒業生求職のお願い …… 31
宮崎県医師会メーリングリストのご案内 …… 37
日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています …… 51
郡市医師会への送付文書 …… 70

医師の心得

1．私たちは、皆さまの
　健康状態をよくお聞きします。

2．私たちは、皆さまに
　最善の医療を提供できるよう心がけます。

3．私たちは、皆さまに
　医療内容をよく説明し、一緒に医療を行います。

4．私たちは、皆さまの
　「知る権利」・「知りたくない権利」を大切にします。

5．私たちは、皆さまの
　健康維持と医療の質の向上に尽くします。

公益社団法人　宮崎県医師会

（平成14年3月12日制定）

〔表紙作品：パステル素描〕

まどろみ10か月

我が家の初孫です。
この時にしか描けない姿をお昼寝の途中に写してみました。
父親が子どものために用意した模造紙と，食べられるクレヨン。
まどろみの中で，すくすくと育ち，何を夢見ているのか，
大きく　大きく　なあれ。

宮崎市　戸田淳子（とだじゅんこ）

会長のページ

医政について

河野雅行（かわの まさゆき）

医師の目的は国民の健康・生命を守ることである。言い換えれば地域医療を守ることである。しかし，医師の目的が高尚であろうとも，現代社会においては医療のみ孤高では通らない。密接に社会・政治・経済とリンクしている。良い医療には良い医療政策がなければならない。過去には医療のみに専念すれば，後は自然に何とか良い結果につながる夢のような時代もあった。今は，その様な理想状態は望むべくもない。現代の社会では発信力も重要である。しかし，我々医師が声を挙げると多他方面から圧力団体等々の批判を受ける。実際は，医師会の主張は県民・患者さんを代弁しているのであり，エゴでもよくばり村の村長さんの弁でもない。したがって，何と揶揄されようともその信念の元，更に，主張し続けなければならない。

最近，国の施策の基本的な姿勢として，地方創生，地方自治が強調されるようになり，特に，福祉・医療は，きめ細かい，地域に合った施行を目的として，国から地方自治体に移管されようとしている。介護は既に市町村が主体となっており，その手法で医療も県単位に収斂されようとしている。

日医では早くから医政の重要性に注目し，様々な対策を講じてきた。日医の医療政策の基本として「地域医療を支える」「将来の医療を考える」「組織を強くする」の３項目を挙げている。また，日医が国の政治を判断する基準としては，「国民の安全な医療に資する政策か」「公的医療保険による国民皆保険は堅持できる政策か」の２項目を挙げている。更に本年の代議員会で日医綱領を決定，それらの実現に邁進することになった。

県医でも，今後は我々自身で，県や市町村と積極的に協議を行い，地域に合った医療体制を構築する必要が生じている。国の提唱する地方創生は「地域でそうせい」も含んでいるのである。そこで，地方選挙が重要な意味合いを持ってくる。この 12月には，宮崎県知事選挙が，来春には統一地方選挙も予定されている。

国民の生命・健康を守るのは，国の最重要使命である。分に過ぎた要求はともかく，この文明社会において生命・健康以上に重要なものは何があろうか？当然，財政的な見地からのみで健康を論じるべきではない。しかも，我が国は充分な力を有するのである。巷間言われるように，空気と同じ様に安全・安心は「ただ」ではない。歴史は多量の血を流した結果にようやく得られた安全・安心も多数あることを示している。同様に生命・健康を守るのも生半可な取組みでは得難いものである。政治のさじ加減で左右されてはならない。とは言っても，現実は為政者の方針で決まる。医政はその時々の政治家・政権の質によって翻弄されてきた。トップの考え方が少し変わる（振れる）だけで末端の振幅は大きなものとなる。本当の政治家は誰なのかを見極めないと，結局は自分達で後始末をする羽目になるし，我々を含めた患者さん達までもが不幸にならざるを得ない。そこで，我々，地域医療に携わる者としても医政が重要になる。

勿論，国政レベルでの医療政策動向から目を逸らすことはできないが，医療行政が地方に移管されつつある今，地方の政治が地域医療に密接に関連してくる。今まで以上に地方政治に関心を示し関与すべきである。会員諸先生方におかれても，ご協力をお願いする次第である。

（平成 26年 10月 24日）

日州医談

病床機能報告制度と地域医療ビジョンについて

常任理事　池井義彦（いけ　い　よし　ひこ）

我が国全体の人口の動向を見ると，団塊の世代が75歳を迎える2025年までに75歳以上は年率60万人以上のペースで急増し，０～64歳は，今後今世紀末まで毎年100万人のペースで減少すると見込まれている。この急増する後期高齢者に対応する医療と，今後減少を続ける若者向けの医療の調整をどのように行うかが，現在行われている医療制度改革の最大の論点である。その中で総医療費の推測予測は，2025年にピークを迎えると予測されている。

また，医療資源も，人口動態の推移においても，地域差が大きい。

このことを見据えて，医療・介護の需要が増大する中でどのように良質かつ適切な医療・介護をそれぞれの地域で提供していくかが，我々医療者に求められる課題であり，それぞれの医師会の大きな課題になると考えられる。

2013年８月６日の社会保障制度改革国民会議において，「地域医療ビジョンについては，都道府県において現状分析・検討を行う期間を確保する必要はあるものの，次期医療計画の策定時期である2018年度を待たず速やかに策定し，直ちに実行に移していくことが望ましい」との提言を受け，当初の予定より３年前倒しされることになった。

そのために提供体制改革に向けた新たな財政支援制度が創設され，それと同時に，病床機能報告制度に基づくデータ等により，各都道府県が地域の特性に配慮しながら地域医療ビジョンを作成していくことになる。

病床機能報告制度は本年10月からすでにスタートしており，県医師会としても，病院部会を中心に６月１日に医療改革に関する研修会，８月２日，３日に会員を対象にした個別相談会を開催した。また，厚生労働省においては，９月10日，厚生労働省ホームページ上に，本制度専用ページを立ち上げ，疑義照会への対応が行われている。

【病床機能報告制度　疑義照会窓口】

メール：byousyoukinou＠mizuho-ir.co.jp

FAX：0120-880-124（24時間受付）

電話：0120-110-264（平日9:00～17:00）

地域医療ビジョンは，病床機能報告制度による情報などに基づき，現在の一般病床と療養病床を４つ(高度急性期，急性期，回復期，慢性期)の医療機能に分け，それぞれの必要量を定めていこうというものである。平成27年度より，都道府県は，地域の医療需要の将来推計や報告された情報を活用して，二次医療圏等ごとの各医療機能の将来の必要量を含め，その地域にふさわしいバランスのとれた医療機能の分化と連携を適切に推進するための地域医療のビジョンを策定し，医療計画に新たに盛り込み，さらなる機能分化促進する，というものである。この地域医療ビジョンの策定において，現在国において地域医療構想(ビジョン)策定のためのガイド

ラインを策定しており，第１回の検討会が９月18日に行われた。

これに関し日本医師会は，「期限ありき」で，拙速な対応を強いてはならない。「国のガイドラインが強制力をもつものであってはならず，ガイドラインはあくまで目安とし，地域の実情がしっかりと反映されることを優先すべき」としている。

県医師会においては，地域医療ビジョン委員会に新たに病院部会，有床診療所部会，在宅医療協議会からの代表に委員として参加していただき，従来の各郡市医師会，各医会からの委員を含めての協議を行い，県行政との関与を深めていく所存である。

郡市医師会においても，二次医療圏の医療提供体制の方向性，構想区域のあり方について医師会内で協議を行い，行政との協議を含め関与を深めていただくことをお願いしたい。さらに地域包括ケアシステム（地域における医療および介護の総合的な確保の促進に関する法律）に対しても，郡市医師会が中心となって，医療・福祉のあり方について行政との連携を深めていただきたい。

その中で，日医総研のワーキングペーパー「地域の医療提供体制の現状と将来―都道府県・二次医療圏別データ集―（2014年度版）」や日本医師会のＪＭＡＰ（地域医療情報システム）の活用をお願いしている。特に日本医師会のＪＭＡＰは，会員の先生方の今後の経営の方向性に対しても有効と考えるので，参考にしていただきたい。

最後に，新たな財政支援制度については，今回は各郡市医師会，各専門分科医会，救急告示施設等に照会の上，地域のバランス，事業の整理を行い，県の既存事業以外に20の新規事業を，本年４月県に提出し，その後県と事業内容について選択を行い，予算要望を行った。来年度からは介護に関する内容も対象となり，地域医療ビジョンに基づく病床の機能分化，連携に対する民間医療機関への支援も必要になることが考えられ，地域医療ビジョン委員会や各郡市医師会の意見を聞き，本県のおかれた実情を反映した事業を要望していくように考えている。

随　筆

ひとは一つで等しいもの
（地名考察の試み）

西都市　図師医院　小谷幸生（こたにゆきお）

日之影町に「大人」という地名があります。当直に行った時に看板を見つけ何となく気になっていました。あるときそれは「おおひと」と読むことを知りました。

浅学菲才の身ながら日頃より地名を愚考するのを忘種としております。古の人々の思いを想起すると，連綿と続く悠久の歴史を感じざるを得ません。

地名の考察には，単独より同様の言葉を含む複数の地名を同時に考える方が経験上早くかつ良い結果を得やすいようで，今回複数の地名を同時に考えることにしました。以前より宮崎平野の大河の一ツ瀬川の地名の由来を考えていたところに「おおひと」という発音の地名を知って，「ひと」という言葉に注目し起源を考えることを試みました。「ひと」がはいる地名を探してみると，一ツ瀬川以外に，一ツ葉海岸，隣県に山間の城下町人吉市を思いつきました。

そもそも言葉というものは発音から始まり，その後文字になって記録されてきたと思います。地名もまず発音によって発生したと思われます。よってその起源を考えるときには，表記された漢字の意味は無視すべきと思っております。人も一も「ひと」という発音の言葉として考えます。そして発音から意味を考えるときには訓読みを原則とするべきと思います。遠い昔，純粋な日本語の時代に進んだ文化が漢字を通して入ってきました。古代の人々は，現代人が英語を使うように，尊敬と憧憬をもって漢字を使うようになったと思います。そして元々音読みだけの漢字に，純粋な日本語の意味を訓読みとして付け加えたのだと思います。漢字が入る以前よりの地名，漢字とは関連がない住人が付けた地名の起源は純粋な日本語，原始の日本語である訓読みの発音で考えるべきと思っております。

これらの考え方は私個人の発想で，文献等から参照したわけではありません。以後も私なりの考え方を述べるつもりですが，それらが絶対正しいわけではありませんし，推論が正しいという証明をしていくつもりもありません。地名の由来や意味を考えることは楽しいこと，少なくとも私は十分楽しんでいるということをご紹介したくてこれを書いております。

それでは，引き続いて私なりの考え方の説明をします。訓読みで考えるわけですが，その前に地名を一文字または二文字程度に分けていきます。分けた文字が純粋な原始の日本語であり，地名はその合わさった言葉であると思っております。言葉はその発生時期においては一文字または少ない文字数，単純な繰り返し文字から始まったはずです。こどもが言葉をしゃべり出すのと同じ状態と思います。言語の発生とともに地名も発生したものと思われますので古代から残っている地名は一文字または二文字の短い言葉から成り立っているはずと考えるのです。その組み合わせは名詞のみ，動詞または形容詞と名詞，さらには動詞，形容詞のみで何々する場所，何々のような場所と考える場合もあるよう

です。一文字また二文字の訓読みの日本語は名詞，形容詞たくさんあります。身近なところでは人体の一部を表す言葉はほぼ一文字か二文字です。またそれらの言葉は地形の表現と重なる場合が多いのです。というよりほとんど地形の表現にも使えるのです。これは地名を考えるとき非常に有用な手段になります。例えば，目，鼻，耳，口など，地名にも多く使われているようです。今回の「せ」も「は」も人体の一部です。

次の考え方は，地名に限らず言葉は変化するものと考えざるを得ないということです。そうでないと，現代語で意味がわからない地名はすべて文献上昔からそう呼ばれていたとか，何族や何人が住んでいたからとか，面白くない中途半端な理由になってしまいます。とにかく，知っているか知らないかでもなく，こじつけでもない地名の意味を見つけるためには，今の地名の意味が不明ならば衆目が認める変化の過程を導き出すしかありません。変化の様式は定型的なことはなく様々のようで適宜考察が必要です。発音しやすいように変わる言葉，吉兆な発音に変わる言葉などあるようです。

地名の考察にもどります。大人は「おお」と「ひと」に分けました。「ひと」を「ひ」と「と」に分ける可能性を排除してはいけませんが，今回は「ひと」の二文字で納得のいく結論が出ましたのでその検討の過程は省略させていただきます。

「おお」はそのまま形容詞の大きいと判断して，おおきな「ひと」となります。一ツ瀬，一ツ葉は「ひと」「つ」「せ」「ば」に分けて，「つ」は助詞と考えて，ひとのせ，ひとのばとなります。「せ」は瀬で川で良いと思います。「ば」と「よし」はその時点ではしっくりした言葉はなかなか見つかりませんでした。

糸口は「ひと」の言葉からでした。ひとが付く言葉を「人」，他に「一つ」「等しい」と考えてくると，人は一つで等しいものと何となく理解できる文ができてしまいました。では何が一つで等しいかというと，それは同じ土地，見渡すことのできる一つの土地，同じ標高ではないでしょうか。高さが等しくで一つの区切りとして成り立つ地形，平地，平原が「ひと」ではないでしょうか。そう考えると広い平野を流れる川がひとの川「ひとつせ」，山間の大きめの平地が「おおひと」で得心がいきます。そして「一ツ葉」は平野の端です。「ば」は「は」が変化したものと考えると平野の端で「ひとつば」となり，これまた納得します。あとは「よし」です。平地が何かしている場所なのか，何かのようになっている場所なのか，動詞，形容詞，名詞，また変化した形を考えました。語尾を変化させてみると「よさ，よし，よす，よせ，よそ」などとなります。動詞にするためウ行をつけてみると「よしる，よす，よする」などとなります。良しという言葉もありますが，瑞祥地名は否定する方が良いと思っております。何でもすべておめでたいという地名では，よくある観光パンフレットのようになってしまいます。同様に伝説は合理的ではない話がほとんどで無理に納得すべきではなく，原則否定した方がよいようです。また先ほど少し述べましたが，住人由来の地名も，植物に覆われていたという由来も否定する方が良いと思います。面白みがありませんし懐疑的です。住むことで住人の方の名字がその地名に変わることは多いようですが，誰々という人物または一族が住むから自然発生的にその固有名詞が地名になることはないと思います。植物にしても，現代に地名になるほど単一植物で覆われた地形は見たことがありません。由来も発生時期もわからない身近な地名，非合理的な伝説の地名こそ，その起源を解き明かす楽しみがあると思います。元に戻りますと「よし」は良い所でも，葦がたくさん生えている所でも，ましてや非合理的な言い伝えから生まれた地名でもないと考えるべきと思います。

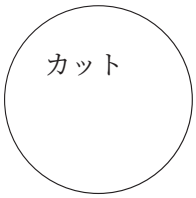
では何かというと，やはり「寄せる」「寄す」という言葉の変化した形の「よし」と考えてよいのではないでしょうか。「ひと」を「寄せる」で「人吉」は平地を寄せ集めたような盆地で見事に合点ができます。自分なりにですが，すべて説明がついて何か大きな歴史上の発見をしたような気分になりました。まさに歓天喜地の境地となりました。

繰り返しになり紙面の無駄になるか知れませんが，今回の考察過程をまとめてみました。まず「ひと」が入る地名を四つ集めました。「ひと」とは高さの等しい平地，「葉」は端の変化したもの，「吉」は寄せるの変化したものと考えて「大人」は大きな平地，「一ツ瀬川」は大地の川，「一ツ葉」は大地の端，「人吉」は平地を寄せ集めた盆地という結論に達しました。

また，今回の私なりの思考方法もまとめてみました。複数の地名を同時に考え良い結果が得られました。漢字表記は無視し，訓読みの短い言葉に分けて考えました。言葉の変化，言葉のつながりを品詞等を考慮して探りました。瑞祥（ずいしょう）地名，伝説地名，植物地名，住人地名は否定しました。これらの考え方は他の地名を考えるときにも使えると思います。

次に，他の作業や道具が必要かというと，地形を実際に見ることは思考を容易にするかもしれませんが，ときに一部分のみ見て先入観を生じることもあります。地形図は全体的な俯瞰ができ，周囲の地名も多数表記されていてヒントになります。二万五千分の一の国土地理院発行のものが地名が多くて等高線も多くわかりやすくて良いと思います。

皆様も身近な地名の由来を考えてみると，誰かに話したくなるようなうれしい大発見をするかもしれません。かくいう私も，誰かに話したくなっているささやかな気付きをもう少し持っています。機会があればまたご紹介したいと思います。



「新春随想」原稿募集

平成27年１,２月号に恒例になりました「新春随想」欄を企画いたしております。この欄は大変好評ですので，奮ってご投稿をお願いいたします。

題　材　医事評論，診療閑話，身辺雑記，詩歌，俳句等なんでも結構です。
本文に関連した写真・イラスト等（１枚程度，カラー印刷はできません）も掲載できます。

字　数　800字以内（字数が多い場合は「新春随想」として掲載できないことがありますのでご了承ください）

締　切　平成26年12月10日㈬

宛　先　宮崎県医師会広報委員会

◎　原稿には「新春随想」と明記してください。

◎　掲載については，広報委員会にご一任くださいますようお願いいたします。

◎　掲載はお一人，１編とさせていただきます。

◎　ご投稿の原稿が他紙に掲載，または投稿中の場合はその旨お知らせください。

◎　原則として，原稿はお返しいたしません。返却を希望される方はその旨ご指示ください。

◎　日州医事は，会員以外（マスコミ・行政・図書館等）にも配付しています。

原稿は主にメールにて受け付けております。ワードまたはテキスト形式で作成・保存し，日州医事原稿専用アドレス（genko@miyazakimed.or.jp）宛にお送りください。もちろん，それ以外の方法（FAX，郵便等）でお送りいただいても構いません。

原稿送付・問合せ先

宮崎県医師会広報委員会　新春随想係

E-mail:genko@miyazaki.med.or.jp

〒880-0023 宮崎市和知川原１丁目101

FAX　0985-27-6550　TEL　0985-22-5118

※原稿送付の際は，他の原稿との混同を防ぐため「新春随想」である旨とタイトル，ご氏名を明記の上お送りください。

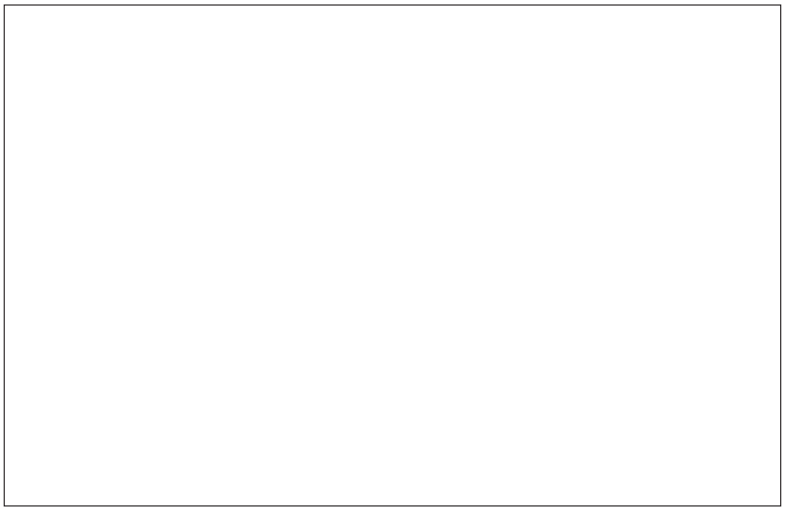
各郡市医師会だより

南那珂医師会

会長　島田雅弘（しまだまさひろ）

本年６月より，山元敏嗣先生より南那珂医師会長を島田雅弘が引き継ぎました。週末，祝日に限って開けていた夜間急病センターを平日も行い，６か月以上の小児も診るようにしたこと，またそれにより県立日南病院の救急外来の負担を軽くし，病診連携がうまく回り始めたこと，また公費を使い，医師会員の負担を軽くし，老朽化したセンターを新築させたことなど救急医療だけでも山元先生の業績はこれだけあります。その他大方先生が片付けてくださいましたので，在任２年間粛々とノルマだけ果たすつもりでいたのですが，着任早々在宅医療介護ネットワーク構築モデル事業が飛び込んでまいりました。日南市と延岡市に県より2,000万円の補助金が交付され，３年間でICT（Information and Communication Technology）を中心に据えて在宅医療環境を整備することです。日南市は，一般病棟，療養病棟が他の市町村に比べてかなり多く，生活習慣病のコントロール不良と併せ，国保高騰の原因となっております。また訪問看護ステーションも２か所しかなく，在宅を担う家族の高齢化等田舎共通の事情もあり，在宅医療は容易に解決できる問題ではありません。ただ，日南保健所の聞き取りでは，60%以上の高齢者が在宅での看取りを希望しています。この地区は20年程前から医師，看護師のみでなく理学療法士，ケアマネジャー，保健所職員等多くのスタッフを加えた総勢70名程度で「在宅ケア研究会」を毎月１回行っており，在宅療法に熱意を持っている方が多く，もう既に横の関係は出来上がっていますので，あとは使い勝手のよいソフトを導入することにより市民の気持ちに応える良いモデルが出来ると信じています。

３公立病院の先生に病診連携を進めるため留任をお願いした以外，役員が大きく変わりました。なお一層のご指導を宜しくお願いします。



南那珂医師会新役員

役　員　等　名　簿（任期　平成26年６月６日定例総会終結後～平成28年６月定例総会終結時）

	役職名	氏　名	診　療　科	所属医療機関	担　当　業　務
＊	会　長	島田　雅弘	内科，消化器科， 胃腸科，呼吸器科， 循環器科	島田内科胃腸科	総括
＊	副会長	中村　彰伸	眼科	中村眼科	総括補佐，総務，学術・生涯教育， 病診連携，保険
＊	〃	川越　勝秀	整形外科，リウマチ科， リハビリテーション科	川越整形外科	総括補佐，医事紛争，介護保険， 救急医療
＊	理　事	内村　利博	産婦人科	産科・婦人科 うちむらクリニック	会計，労務・福祉・給与委員会，園医
	〃	黒木　和男	内科，消化器科	串間市民病院	病診連携
	〃	竹中　晃司	外科	日南市立中部病院	病診連携
	〃	新名　洋美	内科，循環器科， 呼吸器科	にいな内科・循環器科	串間在宅ケア研究会
	〃	河野　秀一	内科，呼吸器科， 消化器科，放射線科	河野医院	急病センター
＊	〃	江良　幸三	形成外科，皮膚科	江良形成外科皮膚科	学校医
	〃	峰松　俊夫	内科， 基礎医学（ウイルス学）	愛泉会日南病院	宮崎県医師会理事，感染症， 医療情報システム
＊	〃	山見　信夫	小児科	山見医院	産業医，学校検診（心臓・腎臓）
	〃	木佐貫　篤	病理	宮崎県立日南病院	病診連携
	〃	川西　昭人	脳神経外科，神経内科， リハビリテーション科	かわにし脳神経外科	日南在宅ケア研究会
＊	監　事	長鶴　和美	内科，精神科， 心療内科	長鶴医院	
＊	〃	満留　武宣	眼科	みつとめ眼科	
＊	議　長	津曲　俊郎	小児科，アレルギー科	津曲小児科医院	
＊	副議長	河野　清秀	内科，循環器科， 消化器科，呼吸器科， 神経内科	きよひで内科クリニック	

＊は新任

各郡市医師会だより

西　諸　医　師　会

会長　髙崎直哉（たかさき　なおや）

平成26年６月13日，一般社団法人西諸医師会第３回定時総会（平成26年度）において再選され，会長として２期目を担当させていただくことになりました。執行部のメンバーは矢野裕士先生が新しく副会長になり，新添謙一先生が理事を退任され，代わりに井尻裕司先生に加わっていただきました。それ以外の理事の先生は留任となりました。

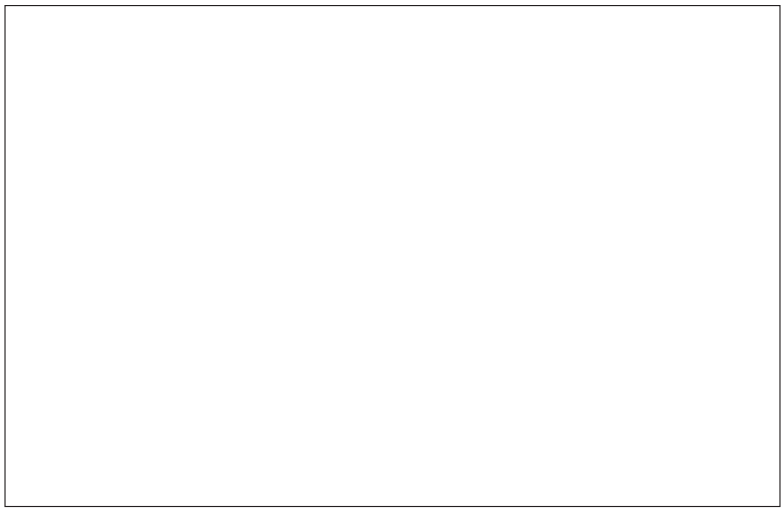
前期同様に，今まで先輩方が築かれた西諸医師会の伝統を引き継ぎ，若い先生方の意見も積極的に取り入れながら，医師会活動を行っていきたいと考えております。

この２年間，二市一町の行政と連携し，学校法人宮崎総合学院を誘致し，高等看護学校設立の準備を進めてまいりましたが，来年４月に，小林看護医療専門学校が開校予定となりました。当地域で養成し卒業した看護師が，多数定着できることを期待しております。

平成26年１月27日，西諸地域医療体制の強化を図るため，二市一町の首長，小林保健所所長，医師会の構成メンバーで西諸医療懇話会を設立しました。今後，当地域に共通する医療の課題改善に向けて，連携を図りながら，話し合いを進めてまいりたいと考えております。

これからも，地域医療を守るため，会員の先生方と共に考え，ご指導，ご協力を仰ぎながら，また，二市一町の行政との連携を密にし，話し合いの場を持ちながら，執行部一同努力していく所存であります。

今期も，当医師会に対しまして，県医師会，各郡市医師会の先生方のご支援，ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



西諸医師会新役員

役　員　等　名　簿（任期 平成26年6月13日～平成28年度定時総会終結時）

役職名	氏　名	診　療　科	所属医療機関	担　当　業　務
会　長	髙﨑　直哉	皮膚科	髙﨑皮膚科医院	総括
副会長	内村　大介	精神科，心療内科	内村病院	〔県医師会理事〕 准看護学校の管理・運営， 医療事故・医事紛争，＜教務委員会＞ ＜医師連盟＞
＊　〃	矢野　裕士	消化器科，外科 循環器科	前田内科医院	介護保険，保健予防事業，時間外急病診療 学校保健，産業医，学術 ＜心臓・腎臓検診委員会＞　＜学校医部会＞ ＜内科医会＞　＜産業医部会＞ ＜医師協同組合＞
理　事	花田　武浩	耳鼻科，咽喉科 アレルギー科， 気管食道科	花田耳鼻咽喉科	総務，広報 会員の福祉・厚生・医師年金
〃	莫根　隆一	外科	国民健康保険高原病院	地域医療
〃	池井　義彦	泌尿器科，麻酔科 外科	池井病院	〔県医師会理事〕 ＜病院部会＞
〃	立山　洋司	整形外科，リハビリテーション科，リウマチ科	立山整形外科医院	医師国保，税務
〃	坪内　斉志	外科，消化器外科 麻酔科	小林市立病院	保険医療，訪問看護事業 ＜勤務医部会＞
〃	杉原　純次	耳鼻科，咽喉科	杉原耳鼻咽喉科	会計全般，厚生，労務
〃	丸山　賢幸	外科，消化器科， 胃腸科	園田病院	救急医療
＊　〃	井尻　裕司	眼科	井尻眼科医院	生涯教育
〃	河内　謙介	外科	えびの市立病院	労災医，自賠責 ＜労災部会＞
監　事	吉永　一春	整形外科	整形外科前原病院	
〃	丹　　光明	内科，外科	丹　医院	
議　長	志戸本宗徳	内科，呼吸器科，消化器科 胃腸科，循環器科，放射線科	京町共立病院	
副議長	槇　健一郎	内科	槇内視鏡内科病院	

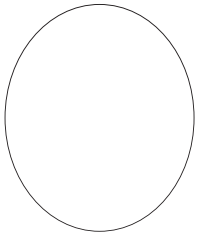
＊は新任

エコー・リレー

（471回）
（南から北へ北から南へ）

プールへ行こう！

宮崎市　古賀総合病院　川越（かわごえ）富夫（とみお）



ジム通いが趣味の１つで，なかでもプールでの水中運動を中心にしています。

地球上で，重力から解放されるもっとも簡単な手段が水に入ることです。胸まで水に入れば，体重は陸上の30～40％になり，首まで浸かれば約10％になります。一方，陸上でのウォーキングで膝にかかる重力は体重の約２倍にもなり，ジョギングではそれ以上の負担がかかるといわれています。

水中では浮力により，体が安定しない。そのため，陸上ではあまり使わない筋肉を総動員するので，バランス良く体を鍛えられます。逆に，水中では抗重力筋を弛ませるため，腰痛や肩凝りにも効果があるといわれています。また，大腿四頭筋などの大きな筋肉に代わって働くのが関節周りのインナーマッスルで，この筋肉を使用する運動を関節授動運動といいますが，水中では効率的に関節授動運動ができます。

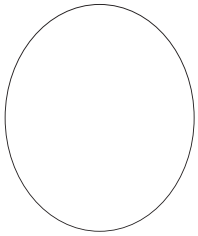
水中運動は心機能アップや血圧コントロールにも効果があるようです。水中では，心房性Ｎａ利尿ペプチドの分泌が亢進し心機能を高め，それのレニン抑制効果により血圧を下げると考えられています。その他，酸素摂取量の増加による持久力のアップや運動能力の向上など様々な効果が水中運動にはあります。

最近，ジョギングなどに興じる先生方も増えていますが，ジョギング中のケガや突然死のニュースも絶えません。機会があれば，水泳などの水中運動も試してみてはいかがでしょうか？（フィオーレ古賀会員募集中!!）でも，持病のある方は，一度お医者さんにご相談ください（笑）

〔次回は，宮崎市の米田 由香里先生にお願いします〕

いつの間にか　トライアスロンにどっぷり

都城市　吉見クリック　吉見（よしみ）雅博（まさひろ）



人生の中で幸せの絶頂の一つにあげられる結婚ですが，私は体重も100キロ近くあり重さも絶頂でした。その後，長男が生まれこのままではイカン！と，ママ友のパパ（ややこしいですね）と始めたマラソンがいつの間にかトライアスロンに変わって既に５年以上経ちました。

調べてみると，色んなところで大会が開催されており，旅行も兼ねて家族も楽しめるいい運動だと思います。中でも一番楽しんだのは2011年と2012年に行った宮古島での大会です。４月に開催されるこの大会は，いわゆるロングと言われるものでスイムが海を３キロ泳ぎ，次に自転車（バイク）を155キロ漕いで，その後フルマラソンです。初めて出たロングの大会ですが，無事に完走し残り５キロ地点で感極まって涙が出たのを昨日のことのように覚えています。運良く２年続けて出られましたが，その後は抽選もれで参加できずにいますが，来年の申し込みを先日済ませ，クリスマスの頃に来る当選メールをサンタさんにお願いしました。

さて，最近知り合ったマラソンされる先生が言った言葉がある有名なトライアスリートと被っていてとても印象に残っています。マラソンしてます！というと，次の質問は大概「フルマラソンの自己ベストは？」です。けれどそれはつまらない，どこに行ったことがあるか？どの大会が面白かったか？という会話でマラソン談義に花を咲かせたい，というような旨を近所の飲み屋でしました。

トライアスリートも，何故かタイムのことよりもどの大会が面白かったか？お勧めは何処だ，といったことをよく話します。タイムだけ見て続けていくのは，大変なスポーツですので，楽しみながら今後も続けていこうと思いました。

〔次回は，同じトライアスリートの都城市の伊木秀郎先生にお願いします〕

あなたできますか？

― 平成25年度 医師国家試験問題より ―

（解答は71ページ）

1．アトピー性皮膚炎に伴う網膜剝離の種類はどれか。
a　出血性
b　牽引性
c　漿液性
d　滲出性
e　裂孔原性

2．Crohn病に特徴的なのはどれか。2つ選べ。
a　敷石像
b　輪状潰瘍
c　小腸狭窄
d　大腸黒皮症
e　連続性病変

3．ネフローゼ症候群をきたしやすいのはどれか。2つ選べ。
a　アミロイド腎症
b　腎硬化症
c　多発性嚢胞腎
d　膜性腎症
e　慢性腎盂腎炎

4．Parkinson病の治療に用いられるのはどれか。2つ選べ。
a　ドパミン
b　ドパミン受容体遮断薬
c　ドパ脱炭酸酵素阻害薬
d　アセチルコリン分解酵素阻害薬
e　モノアミンオキシダーゼB阻害薬

5．21歳の男性。手指の震えを主訴に来院した。週に3日午前中，派遣先の大型塗料店で在庫管理の仕事をしている。4日前，離島でダイビングをしている時，水深21mまで潜ってから浮上する途中に，潜水の履歴から浮上の必要性や手順を計算するダイビングコンピュータから浮上を停止するよう指示を受けた。その際，一旦浮上を停止した後インストラクターの指示に従い浮上した。2日前もダイビングをした後，夕方ジェット旅客機に搭乗し帰宅した。帰路，天候が悪く機体の揺れのため席から離れることができなかった。就寝時，右中指の近位指節間関節が少し痛いのに気付いた。昨日も指先の感覚に違和感を覚えた。本日，字を書く時に指先が震えるため受診した。
最も考えられるのはどれか。
a　減圧症
b　動揺病
c　頸肩腕障害
d　有機溶剤中毒
e　VDT作業による障害

6．70歳の女性。左上腹部痛を主訴に来院した。昨夜，久しぶりに孫たちと遊んだり歌ったりして騒いだ。その3時間後から左上腹部に痛みを感じるようになった。診察室には前かがみの姿勢で入ってきた。食事摂取は良好であり，悪心や嘔吐はなく便通も正常である。3年前に脳梗塞を発症し，その後アスピリンを内服している。体温36.5℃。脈拍88/分，整。血圧140/90mmHg。左上腹部に限局した圧痛を認めるが，反跳痛はない。腹筋を緊張させると疼痛と圧痛とは増強する。腸雑音は正常である。
最も考えられるのはどれか。
a　急性膵炎
b　腹壁血腫
c　腸腰筋膿瘍
d　虚血性大腸炎
e　穿孔性胃潰瘍

7．我が国の人口静態（平成23年度）で正しいのはどれか。
a　総人口は6,218万4千人である。
b　総人口に占める男性の割合は女性より多い。
c　15歳未満の人口は1,000万人を超えていない。
d　生産年齢人口が総人口に占める比率は40%である。
e　老年人口（65歳以上）は総人口の21%を超えている。

8．健康保険法に基づく療養の給付の一環として保険調剤業務を取り扱う薬局をこの法律で何と呼ぶか。
a　院外薬局
b　基準薬局
c　処方薬局
d　調剤薬局
e　保険薬局

9．小学校の健康診断について正しいのはどれか。
a　隔年で実施される。
b　聴力検査は含まれない。
c　胸部エックス線撮影を行う。
d　心エコー検査は必須項目である。
e　学校保健安全法に基づいて行われる。

10．ヒト造血幹細胞について誤っているのはどれか。
a　多分化能を有する。
b　自己複製能を有する。
c　胎生期初期は骨髄に存在する。
d　細胞表面抗原はCD34陽性である。
e　G-CSFの投与により末梢血中に増加する。

宮崎県感染症発生動向 ～９月～

平成26年９月１日～平成26年９月28日（第36週～39週）

■全数報告の感染症

１類：報告なし。

２類：○結核21例：保健所別報告数を【図１】に示した。患者が17例，無症状病原体保有者が１例，疑似症患者が３例であった。患者は肺結核が14例，肺結核及びその他の結核（気管支結核）が１例，その他の結核では脊椎カリエスが１例，腹腔内摘出腫瘍部が１例であった【表１】。性別は男性６例・女性15例で，年齢別報告数を【表２】に示した。

３類：○腸管出血性大腸菌感染症１例：宮崎市保健所管内で報告された。
・患者は20歳代で，無症状病原体保有者。原因菌の○血清型は○26（ＶＴ１産生）。

４類：○日本紅斑熱１例：日南保健所管内で報告された。
・患者は70歳代で，主な症状として発熱，刺し口がみられた。
○レジオネラ症３例：宮崎市，都城及び中央保健所管内で各１例ずつ報告された。
・患者の病型は肺炎型２例，ポンティアック熱型１例で，年齢別では60歳代１例，80歳代２例であった。主な症状として発熱，咳嗽，肺炎がみられた。

５類：○後天性免疫不全症候群１例：宮崎市保健所管内で報告された。
・患者は50歳代男性で，急性ＨⅣ感染症。主な症状として発熱，倦怠感，頭痛，咽頭痛がみられた。
○梅毒１例：延岡保健所管内で報告された。
・患者は90歳代男性で，無症状病原体保有者。

■５類定点報告の感染症

定点からの患者報告総数は2,385人（定点あたり73.0）で，前月比108％と増加した。また，例年の84％と少なかった。

前月に比べ増加した主な疾患はインフルエンザとＲＳウイルス感染症で，減少した主な疾患は咽頭結膜熱とヘルパンギーナであった。また，例年同時期と比べて報告数の多かった主な疾患はインフルエンザと感染性胃腸炎であった。

ＲＳウイルス感染症の報告数は377人（10.5）で，前月の約9.9倍，例年の約0.5倍であった。日向（39.0），延岡（16.3）保健所からの報告が多く，年齢別では１歳が全体の約半数を占めた。

感染性胃腸炎の報告数は840人（23.3）で前月と同程度，例年の約1.2倍であった。日南（52.0），小林（45.0）保健所

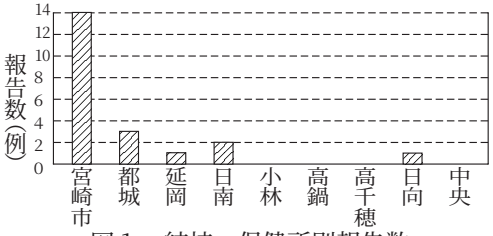


図１　結核　保健所別報告数

表１　結核　病型別報告数（例）

肺結核	14
肺結核及びその他の結核（気管支結核）	1
その他の結核	2
無症状病原体保有者	1
疑似症患者	3

表２　結核　年齢別報告数（例）

30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	80歳代	90歳代
1	1	2	5	5	4	3

前月との比較

	2014年９月		2014年８月		例年との比較
	報告数（人）	定点当たり（人）	報告数（人）	定点当たり（人）	
インフルエンザ	23	0.4	18	0.3	★
ＲＳウイルス感染症	377	10.5	38	1.1	
咽頭結膜熱	78	2.2	89	2.5	
※溶レン菌咽頭炎	152	4.2	159	4.4	
感染性胃腸炎	840	23.3	845	23.5	★
水痘	163	4.5	154	4.3	
手足口病	269	7.5	288	8.0	
伝染性紅斑	2	0.1	11	0.3	
突発性発しん	182	5.1	163	4.5	
百日咳	0	0.0	1	0.0	
ヘルパンギーナ	204	5.7	308	8.6	★
流行性耳下腺炎	44	1.2	29	0.8	
急性出血性結膜炎	0	0.0	0	0.0	
流行性角結膜炎	46	7.7	49	8.2	
細菌性髄膜炎	0	0.0	0	0.0	
無菌性髄膜炎	4	0.6	2	0.3	
マイコプラズマ肺炎	0	0.0	1	0.1	
クラミジア肺炎	1	0.1	0	0.0	
感染性胃腸炎（ロタウイルス）	0	0.0	4	0.6	

★　例年同時期（過去３年の平均）より報告数が多い
※　Ａ群溶血性レンサ球菌咽頭炎

からの報告が多く，年齢別では６か月～３歳が全体の約半数を占めた。

手足口病の報告数は269人（7.5）で前月の約0.9倍，例年の約0.6倍であった。小林（26.0），日南（16.3）保健所からの報告が多く，年齢別では１～２歳が全体の約半数を占めた。

■月報告対象疾患の発生動向〈９月〉

□性感染症

【宮崎県】定点医療機関総数：13

定点医療機関からの報告総数は42人（3.2）で，前月比111%と増加した。また，昨年９月（2.2）の約1.4倍であった。

《疾患別》

○性器クラミジア感染症：報告数29人（2.2）で，前月の約1.4倍，昨年９月の約1.6倍であった。年齢別では20歳代が全体の約半数を占めた（男性16人・女性13人）。

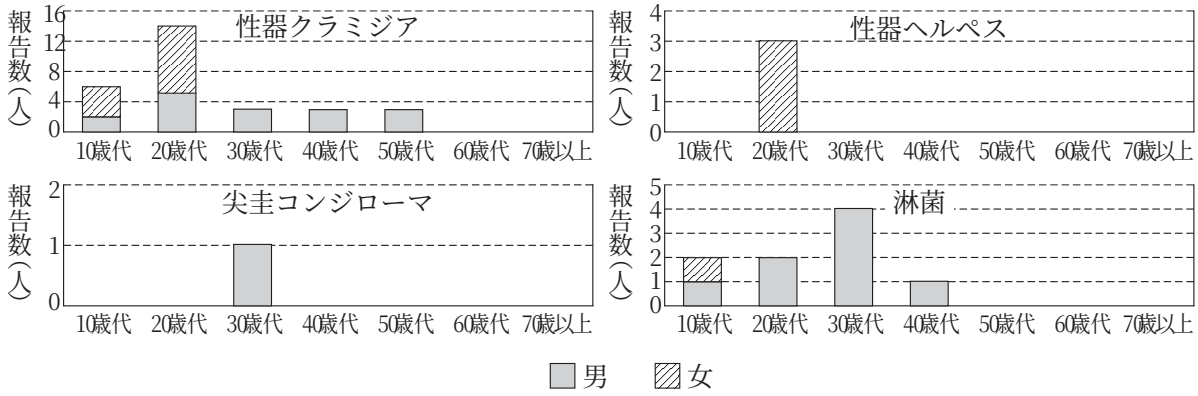
○性器ヘルペスウイルス感染症：報告数３人（0.23）で，前月と同じで，昨年９月の1.5倍であった（女性３人）。

○尖圭コンジローマ：報告数１人（0.08）で，前月の0.5倍，昨年９月と同じであった（男性１人）。

○淋菌感染症：報告数９人（0.69）で，前月の約0.8倍，昨年９月の約1.1倍であった。30歳代が全体の約４割を占めた（男性８人・女性１人）。

■病原体検出情報（微生物部）

	検出病原体	件
ウイルス	アデノウイルス2型	1
	インフルエンザウイルスAH3型	1
	エコーウイルス1型	1
	パレコウイルス	1
	ライノウイルス	2
細菌	腸管凝集付着性大腸菌（OUT：H21）	1
	腸管出血性大腸菌（EHEC）（O26：H11 VT1）	1
	腸管出血性大腸菌（EHEC）（O121：H19 VT2）	2
	毒素原性大腸菌（OUT：HUT，STh）	1
	毒素原性大腸菌（O25：H42，STh）	1
	Legionella pneumophila SG1	1
	Salmonella Livingstone（O7：d,l,w）	1
	Salmonella Mbandaka（O7：z10：e,n,z15）	1
	Salmonella Thompson（O7：k：1,5）	2



□薬剤耐性菌

【宮崎県】定点医療機関総数：７

定点医療機関からの報告総数は21人（3.0）で前月比81%と減少した。また昨年９月（4.1）の約0.7倍であった。

《疾患別》

○メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症：報告数21人（3.0）で，前月の約0.9倍，昨年９月の約0.7倍であった。70歳以上が全体の約８割を占めた。

○ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：報告はなかった。

○薬剤耐性緑膿菌感染症：報告はなかった。

○薬剤耐性アシネトバクター感染症*：報告はなかった。

*…平成26年９月19日より５類全数把握対象の疾患へ移行

（宮崎県衛生環境研究所）

メディアの目

「地元のチーム」を応援したい

ＮＨＫ宮崎放送局　放送部長
奥野慶太（おくのけいた）

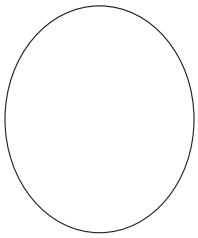
今日は野球の話にお付き合いいただきたい。海の向こうアメリカでは，春に始まり半年間のレギュラーシーズンを経ていま，秋にはその年の全米Ｎｏ.1をかけて「ポストシーズン（ポスト＝後＝レギュラーシーズンの後の意）」の熱い戦いが繰り広げられる。上位チームだけによる短期決戦は見応え十分，ＢＳ１で目に留まった方もいらっしゃると思う。今年はこの稿を書いている時点では，日向市出身の青木宣親選手が日本選手では唯一出場してワールドシリーズまで進んでいる。ぜひ勝ち抜いてチャンピオンリングを持ち帰って欲しい。

そうした中，現地の放送でいつも感じるのは，「都市名」が前面に出る対戦の構図になっていることである。例えば「ワシントン×サンフランシスコ」「デトロイト×ボルチモア」といった具合で，青木選手の場合は「カンザスシティ」，映像に載っている字幕は「ＫＣ」だ。チーム名が「都市＋愛称」だから当然と言えば当然だし，面積が日本の25倍という広大なアメリカ大陸ゆえの，“隣のチームは遠すぎる”という事情もあるのだろう。だがそこには「チームは地元のもの」という確かな哲学を感じずにはいられない。筆者は2009年，ワールドシリーズ放送のため現地に出向いたことがある。当時ニューヨーク・ヤンキースに在籍していた松井秀喜選手が大活躍して，優勝＆ＭＶＰに輝いた時と言えば思い出す方もおられるだろう。この時は「ニューヨーク×フィラデルフィア」という対戦だったのだが，それぞれの本拠地では圧倒的に地元のファンで埋め尽くされ，最高峰の野球を楽しみつつ，声を枯らして精一杯の応援を行っていた。シリーズ後にマンハッタンで行われたニューヨークの優勝パレードは，摩天楼から紙吹雪が舞う中を市民総出で祝福していたことも印象深い。

翻って日本のプロ野球界にも都市名，ないし地域名を冠するチームが増えてきた。曰く「北海道日本ハム」「東北楽天」「千葉ロッテ」「埼玉西武」「福岡ソフトバンク」…。一生懸命に「地元のチーム」を後押しできることは宮崎では今のところ難しい相談で，彼の地のファンがうらやましい限りだ。しかし宮崎にはキャンプ地としての繋がりがある。セ・パ両リーグともに，宮崎でキャンプを張るチームがレギュラーシーズンで１位を取って日本シリーズで対戦…？そんなシーズンを野球ファンの一人として期待している。

宮崎大学医学部だより

附属病院　医療情報部



荒木（あらき） 賢二（けんじ） 教授

沿革・スタッフ

医療情報部は常に医療情報の分野で先駆的な取組みを行っています。平成元年にオーダーリングシステムを稼動させ，平成12年には国立大学病院で最初の電子カルテを導入し，平成17年より宮崎の会社と共同開発した電子カルテを含む総合病院情報システム（WATATUMI）で病院業務の支援を行っています。また，電子カルテに連携するスマートフォンシステム（日本で最初）を開発し，平成24年のWATATUMIのバージョンアップ時より，運用を開始しています。地域医療情報連携システムに関しては平成13年に宮崎健康福祉ネットワーク（はにわネット）を誕生させ，改良を続けながら現在に至っています。

現在の教員は荒木賢二（教授），鈴木斎王（准教授），山﨑友義（准教授），荒木早苗（助教）の４名です。医事課医療情報係病院職員として，有田憲司（技術専門員），山元英子（係長），田中伸一朗（診療情報管理士），渡邊俊介（技術職員），小川祥史（係員），長友陽子（非常勤職員）の６名が勤務しています。診療情報管理士として，西田怜史，成合智望，長友利恵，迫田佳奈，川子佳奈夢の５名の非常勤職員が勤務しています。医療情報部の情報発信業務に関連する部署として，メディア企画室があり，仁鎌照絵，渡邊梨紗，清水亜矢子の３名の非常勤職員が勤務しています。研究員は博士課程学生を含めて４人が研究に取り組んでいます。今年の４月より看護部から小川弘子（副師長）が出向し，医療情報部に関連するスタッフは23名となり，研究と日常業務に取り組んでいます。

研究内容

「使いやすくて役に立つ」をコンセプトとする総合病院情報システムの開発，「はにわネット」の改善，病院経営分析手法の開発，パス（クリニカル・クリティカルパス）システムの開発，医療分野へのサービスサイエンスによる業務支援システムの開発，実践的看護医療情報学が主な研究対象です。また，文科省の大学間連携共同教育推進事業として，平成24年度より「地域の医療現場と協働したサービス・イノベーション人材の育成」に取り組んでいます。

業務内容

医療情報係はWATATUMIの運用支援・改善を主な担当とし，病院内の情報システム（セキュリティを含む）に関する運用支援も担当しています。診療情報管理士は，退院時DPCチェック，量的・質的な病院経営分析の実施と反映，パス作成・修正の支援，退院サマリー作成支援が主な担当になります。メディア企画室は，大学や病院の広報とともに，職員向けの医療安全教育用映像や一般向けの「宮崎大学インターネット放送局Myaoh .TV」の映像も制作しています。看護師は，研究業務とともにWATATUMIでの看護業務支援を担当しています。

教員の４名は，上記の業務の全てに関与しながら，病院・医学部の業務と自らの研究課題に取り組んでいます。

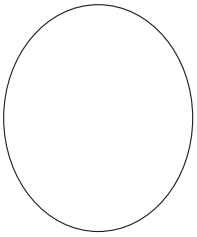
医療情報部の今後

これからの情報技術の急速な進展により，「いつでも，どこでも，だれでも」が可能なユビキタスシステムを情報利用者が求めています。医療情報部は，医療従事者だけでなく患者やその家族を含む医療に関わる全ての人たちが，「使いやすくて役に立つ」を実現できるユビキタス総合医療システムの実現を目指しています。

（准教授　山﨑（やまざき）　友義（ともよし））

国公立病院だより

日南市立中部病院



竹中　晃司（たけなか　こうじ）院長

中部病院は，昭和27年から旧日南市と旧南郷町により国民健康保険中部病院として運営されていましたが，平成21年３月30日に旧日南市，旧南郷町及び旧北郷町の１市２町が合併し，新「日南市」が誕生したことにより，日南市立中部病院となりました。

海岸に隣接した病院施設は，平成10年から11年の２か年で改築した鉄筋コンクリート４階建ての建物で，１階に外来(内科，消化器内科，消化器外科，外科，整形外科，リハビリテーション科，眼科，耳鼻咽喉科，放射線科)，２階に回復期リハビリテーション専用病棟(41床)，３階に内科・外科・整形外科・眼科混合病棟(47床)及び結核病棟(５床)を配置しています。また，病院に併設した医師宿舎を有しています。

職員は，正規職員74名，非正規職員63名の137名で，医師８名(外科医１名，内科医３名，整形外科医１名，リハビリテーション科医２名，眼科医１名)，看護師56名，臨床検査技師３名，理学療法士をはじめとするリハビリテーションスタッフ13名などの体制となっています。

本誌の国公立病院だよりに掲載していただくのは，平成16年の５月号以来10年ぶりとなります。当時の病院長でした大園博文先生から平成20年１月に院長を引き継ぎ現在に至っています。この10年間は，当院にとりましても激動の時期でありました。

平成16年から始まった新臨床研修医制度は，当院にも大きな影響を与えました。大学病院からの派遣医師の引き上げが相次ぎ，10名いた常勤医師も年々少なくなり平成23年には一時４名となり，それまで担っていた救急指定，健診事業，さらには病院業務まで縮小しなければならない状況となりました。この間，医師確保のために大学病院への医師派遣要請を繰り返し行いましたが，宮崎県内を問わず，全国的に発生した地域医療を担う医師の不足により常勤医師の確保は実現しませんでした。一方で病院独自での医師確保に奔走し，宮崎県や日南市，そして医師会の先生方からの情報により，現在８名の常勤医師を確保するに至りました。また，大学病院からは非常勤の専門医師をはじめ当直業務に先生方を派遣していただき，何とか地域医療における当院の役割を果たせる状況となっています。

医師不足は，病院経営を悪化させ健全化という大きな課題を抱えることになりました。また，海岸に隣接した風光明媚な病院環境が，一変して南海トラフ巨大地震による大津波を想定した災害対策という宿命を背負うこととなりました。

病院の経営状況については，病院改築後の減価償却費や支払利息の増加に加え，十分な医師が確保できておらず，厳しい経営を強いられています。このため，当院が公立病院としての使命と役割を果たし，質の高い安全で安心な医療を継続的・安定的に提供するために必要とされ

る経営健全化方策の検討を始めています。

昨年就任された宮崎県福祉保健部出身で地域医療に精通された﨑田恭平市長の肝いりで，本年４月には日南市立中部病院経営健全化検討委員会が設置されました。委員会は市長自ら委員長を務められ，南那珂医師会長，医師の資格を有される宮崎県議会議員，宮崎銀行支店長，住民代表として訪問看護ステーション代表，行政から県立日南病院事務局長や日南保健所長，さらに副市長をはじめとする市の幹部職員及び病院職員で委員を構成し，アドバイザーとして大阪府や大阪市の公立病院改革に携わられるなど病院改革に造詣の深い昭和大学医学部の大嶽浩司教授の助言をいただきながら，本年中には基本方針が出されることになっています。

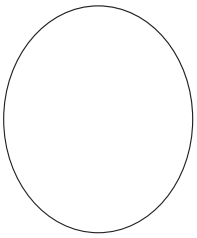
経営健全化検討委員会は現在進行中ですが，県南地域の医療の現状分析と将来の見通しを前提として市立病院が担うべき役割・機能を明確にした上で，経営健全化の方針等を審議していただいています。

当院の担う機能・役割については，民間医療機関では担えない政策医療・不採算医療，県立日南病院との医療機能の分担，今後の高齢者の増加など将来の状況を見据えた機能という基本的な考え方が整理され，その機能については①急性期病院と連携し，患者の早期回復に向けた回復期リハビリテーション医療機能，②民間医療機関では対応困難な市周辺部住民，在宅緩和医療を求める住民等を対象とした訪問診療・訪問看護を行うとともに，「在宅療養支援病院」として民間診療所で対応している在宅患者の急変時の一時入院受入，レスパイト入院(介護家族支援短期入院)等に対応する在宅医療支援機能，③今後の社会保障改革の流れを踏まえ，地域内における在宅医療の推進を図るために，医療と介護の連携のコーディネート，関係者の人材育成，住民への普及・啓発，相談窓口等の在宅医療連携機能，④救急告知病院として常時病床を確保し，休日・夜間における救急患者の対応を担う救急医療機能，⑤心疾患や脳卒中などの危険因子となる糖尿病など住民の中でも患者が多いもの，また白内障など民間医療機関で十分に対応できていない専門診療機能，⑥地域に密着した医療活動としての各種健診等の公衆衛生機能，⑦県内の基幹型臨床病院と連携し，研修医の育成を図る研修医育成機能の７項目について意見の集約がなされ，現在アクションプランの検討に入っています。病院経営健全化検討委員会の結論については，パブリックコメントなどに付した後，本年12月に出される予定となっています。平成27年度から本院の再生をかけた取組みが始まります。

もう１点の災害対策については，本院が海と川に挟まれた標高3.3メートルの地点に立地しているため，南海トラフ巨大地震による津波が最短で14分後には到達し，５メートルから10メートルの浸水が想定されています。現在，来院又は入院されている方々の安全を確保するための職員の対応や避難を含めたマニュアルの見直し作業も進めています。

このような新たな脅威への備えを進めるとともに，市立病院として県立日南病院をはじめとする地域医療機関との役割分担を明確にし，住民の皆様が安心して暮らせる地域社会づくりの一翼を担っていきたいと考えています。スタッフ一同，意を新たに頑張ってまいりますので，皆様のご支援とご指導をよろしくお願いいたします。　　（竹中　晃司）

専門分科医会だより
（皮膚科医会）



成田（なりた） 博実（ひろみ） 会長

前回は平成25年４月号だったので，１年半ぶりの医会だよりになる。現在会員数は前回時から１名増えて47名である。病院勤務医が２名増えて６名になった。

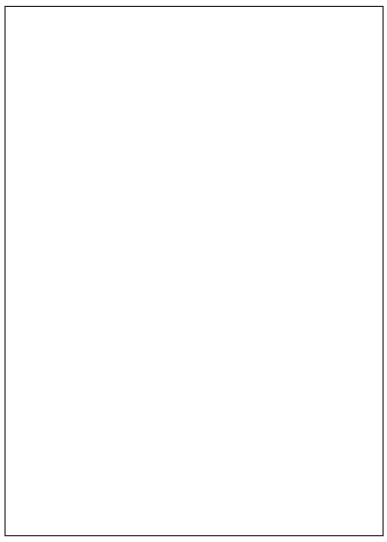
例年の事業として，①年３回の勉強会，②年２回の機関誌「皮膚科だより」発行，③県民啓発用ポスター作成，④11月12日（いい皮膚の日）に合わせた県民向け講演会，⑤元気みやざき「心とからだ」健康教育推進事業，⑥宮日きゅんと投稿(例年２～３回)がある。

主なものについて述べてみたい。①の宮崎県皮膚科懇話会はスポンサーの付かないオープンな勉強会で，６月㈯，９月㈯，２月㈯に開催している。平成24年２月からは，日本臨床皮膚科医会（以下日臨皮）の宮崎県支部会を兼ねることになった。講演の前に，報告事項，協議事項等の議事がある。講演のタイトル，演者は会員の希望を聞いて決めている。因みに今年６月までの３回は，アトピー性皮膚炎と食物アレルギーについて小児科の先生３名（熊本医療センター緒方美佳先生，国立病院機構福岡病院柴田瑠美子先生，宮崎生協病院山元広己先生）の講演を連続して拝聴した。

一番長い事業が③ポスターづくりである。皮膚科啓発活動の一環として，平成２年（1990年）からポスター製作をしている。毎年１枚ずつ作り始めて，今年で25枚目のポスターが出来上がった。昨年度のテーマは「要注意！足の皮膚病」を選んだ。今年度は「子どもが皮膚病になったとき登園，登校で迷ったことはありませんか？」（図）というタイトルで，小児感染症を取り上げた。購入ご希望の方は小生にご連絡下さい。

昨年度のポスターを今年４月に横浜市パシフィコ横浜会議センターで開催された日本臨床皮膚科医会総会・学術大会のポスター部門に出題し，第３位を獲得した。来年開催地の網走でも今年のポスターの出題を計画している。ついでながら，田尻明彦先生がmy favorite signs部門で出題した「ざらざらの皮膚－全身性溶血性連鎖球菌感染症の皮膚症状－」が堂々第１位に輝いた。

また，④皮膚の日講演会を平成３年（1991年）から毎年開催している。今年は24回目で，10月26日㈰に，出盛允啓先生が，「ヒトイボウイルス（150種以上）によるいろいろな病気－普通のイボから，呼吸器乳頭腫症，子宮頚癌まで－」のテーマで講演予定である。例年200名程の参加者があり盛況である。皮膚科医会は，ポスターづくりと講演会を二本柱にして，地道な皮膚科啓発活動を続けており，今後も可能な限り継続の予定である。　　（成田　博実）



第１回各郡市医師会長協議会

と　き　平成26年９月30日㈫
ところ　宮崎観光ホテル

立元常任理事の司会により開会，河野会長の挨拶の後，報告及び協議に入った。

報告及び協議

１．９/16㈫都道府県医師会長協議会について

河野会長から横倉日医会長の挨拶として，以下のような旨の説明が行われた。「病床機能報告制度と地域医療ビジョン」については，団魂の世代が75歳を迎える2025年を見据え，医療・介護サービスの多様化に対応するためには，患者個々の状況に即した，良質かつ適切な医療を提供する体制づくりが急務である。その改革のために新たな財政支援制度が創設されるとともに，病床機能報告制度に基づくデータ等により，各都道府県が地域の特性に応じた“地域医療構想（ビジョン）”を作成し，その実現に向けた施策が展開されていくことになる。国からのトップダウンではなく，地域医師会や行政が主体となり，全ての人的・物的資源を再評価した上で，地域の実情に即した形での“まちづくり”を行うことになるので，都道府県医師会として強力にバックアップしていただきたい。「消費税」については，政府は消費税率10%への引上げの最終判断を年末に予定していることから，“控除対象外消費税問題”の解決に向けて最終局面を迎えている。医療界の意見集約に向けて各種調整を行った結果，一定の結論が出せた。まずは医療界全体の足並みをそろえることが重要で，バラバラでは厚労省や財務省等とまともに折衝できない。対話を通じて理解を得ながら，最善と思うものを選択し，要望にまとめた。今後，問題解決に向けた活動を行うにあたって，ご理解と全面的なご支援をお願いしたい。

各項目は，河野会長が要点をまとめ報告を行った。

１）病床機能報告制度と地域医療ビジョンについて

・「地域医療ビジョンに対し，今後どう対処すべきか」
国際福祉医療大学高橋教授の講演

・地域医療構想（ビジョン）策定のスケジュール説明（中川副会長）

・病床機能報告制度の概要について説明
（釜蒭常任理事）

・新たな基金の活用，地域医療ビジョンの策定とその実現に向けての説明
（中川副会長）

２）消費税について

・控除対象外消費税問題に係る税制要望が取りまとめられたことの報告
（今村常任理事）

（詳細については，日医ニュース№1274号/平成26年10月５日掲載のため省略）

２．新たな財政支援制度の現状報告について

河野会長から，この制度は地域医療再生基金に続くものであるが，既存事業の振替と新たな要望を受けて県と医師会等の各団体と協議の上，事業の構成を行ってきたものである。既存事業については，国庫補助制度廃止に伴い，新たな制度に移行する事業が約6.1億円，

新規事業15項目が約2.7億円であり，現在，県で財政査定中であるので，個別の事業費，更には最終の総額がいくらになるかは未定である。また，郡市医師会から要望のあった事業で，今回は見送らざるを得なかったものもあったが，26年度事業は27年１月以降の実施となる。並行して27年度事業の要望とりまとめも来るので，要望事業の構成について検討いただきたいと報告された。

３．関節鏡下手根管開放術の麻酔として算定する正中神経ブロック査定について

提案要旨の説明の後，佐藤理事から，処置，手術等に係る麻酔については，神経ブロック料ではなく，麻酔で算定するとあり，社保・国保間で算定の差異がないよう再度検討し，後日，回答することとなった。

出席者－川名(宮崎)・飯田(都城)・
吉田(延岡)・渡邊(日向)・
永友(児湯)・岩見(西都)・
島田(南那珂)・髙﨑(西諸)・
佐藤(西臼杵)・吉原(宮大医)会長

県　医－河野会長，富田・濱田副会長，
立元・吉田(重複)・小牧・荒木・
池井・牛谷・金丸・佐々木(幸)・
髙村常任理事，上田・峰松・川野・
佐藤・佐々木(究)・岩村・米澤・
鮫島・糸数・内村理事

事務局－大重事務局長，小川・竹崎次長，
與・久永課長，田﨑主事，
杉田医師国保次長

10月のベストセラー（宮崎県）

集計：2014年10月１日～10月25日

1	おかげさまで生きる	矢作直樹	幻冬舎
2	フォルトナの瞳	百田尚樹	新潮社
3	７つの習慣	小山鹿梨子	宝島社
4	銀翼のイカロス	池井戸潤	ダイヤモンド社
5	置かれた場所で咲きなさい	渡辺和子	幻冬舎
6	Nのために	湊かなえ	双葉社
7	学年ビリのギャルが１年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話	坪田信貴	KADOKAWA
8	ソロモンの偽証③④	宮部みゆき	新潮社
9	生きる意味109	長南瑞生	１万年堂出版
10	１日３食をやめなさい	内海聡	あさ出版

明林堂書店調べ　提供：本郷店（宮崎市大字本郷北方）☎(0985) 56-0868

九州医師会連合会第343回常任委員会

と　き　平成26年９月20日㈯
ところ　大分オアシスタワーホテル

１　開　会
２　挨　拶
　九州医師会連合会長（近藤稔大分県医師会長）
３　報　告
　①広島土砂災害に対するお見舞いについて
（大分）
　各県医師会から５万円と九医連から10万円，合計50万円を広島県医師会を通じて安佐医師会に送金することが承認された。
　②九州医師会連合会委員・九州各県医師会役員合同協議会における日本医師会に対する質疑・要望事項等について（大分）
　・熊本－Ａｉにおける諸問題，児童生徒の健康情報の管理分析
　・鹿児島－医師臨床制度の見直しについて
　・沖縄－「地域包括診療料」と「地域包括診療加算」について
　・熊本－柔道整復師の諸問題（要望）
　③日本医師会会内委員会委員について
　一部未定もあるが，ほぼ要望通りの状況である。
４　協　議
　①第344回常任委員会・第108回臨時委員総会の開催について（大分）
　提案どおり了承された。
　②第114回九州医師会連合会総会における宣言・決議（案）について（大分）
　複数の意見が出たため，大分県医師会で，案文調整の上，後日，各県医師会に提示することとされた。
　③第345回常任委員会及び第２回各種協議会の開催について（大分）
　提案どおり了承された。
　④九州ブロック認定産業医制度基礎・生涯研修会について（福岡）
　日時：平成27年２月21日㈯～22日㈰開催予定
　場所：産業医科大学実務研修センター
　⑤第12回福岡県医師会「卒後臨床研修指導医ワークショップ」開催に関する周知依頼について
（福岡）
　日時：平成26年12月６日㈯～７日㈰
　場所：北九州八幡ロイヤルホテル
　（10月ごろ開催案内通知発送予定）
５　その他
６　閉　会

出席者－河野会長，大重事務局長

第64回全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会

と　き　平成26年９月27日㈯
ところ　江陽グランドホテル（宮城県仙台市）

平成25年度の全国医師会医療秘書学院連絡協議会定例総会は，宮城県医師会の担当で開催された。

協議会長挨拶（宮城県医師会嘉数研二会長）

本協議会は，日医認定医療秘書養成校の全国組織として昭和40年に発足した，歴史と伝統のある協議会である。今年度から，埼玉県医師会と岡山県医師会の各一校が加入し，11県13校になった。今後も加入校の増加の期待が高まる。

近年，少子高齢化が進む中で医療現場ではより高度な専門化が進んでおり，医療の業務を効率的かつ迅速・正確に補助できる優秀な医療秘書の役割は，多岐に及んでますます必要になっていると思われる。我々が養成する医療秘書は日医認定であり，他の学校の模範となるような質を備えた人材育成に取り組まなければならない。医師が本来の専門的社会的活動に専念できるように，優秀な人材育成が期待される。本協議会としても，日医認定医療秘書という職種がより一層活躍できる場を設けられるよう，今後も日本医師会主導のもと，医療を担う専門職としての認知向上に努めると共に，加入校の増加，日医認定医療秘書の養成に取り組む所存である。

来賓祝辞

（横倉義武日医会長（松原謙二日医副会長代読））

先般，医療介護の提供体制の見直しや地域包括ケアシステムの構築に向け，いわゆる医療介護総合確保増進法が成立した。新たな財政支援制度に関する部分など一部が施行され，病床機能報告制度は10月から開始され，地域医療ビジョンは来年４月以降に策定される見通しである。日本医師会は，「組織を強くする・地域医療を支える・将来の医療を支える」の３つの方針を掲げ，国の検討会議等で積極的に主張して参りたいと考えている。今後の超高齢社会において，地域医療を支える医師の業務はますます膨大で複雑化することが予想される。地域住民が健康で安心して暮らしていけるためにも，医療を提供する基盤である医師の負担を軽減し，本来の専門的な業務に専念できることが必須である。将来の医療を考えるうえでも，事務的側面で医師を補佐する医療秘書の活躍が大切である。「一人の医師に一人の医療秘書」という体制の実現に向けて，国に要請して参りたい。昭和56年に養成を開始して以来，約9,000人もの方々を日医認定医療秘書として世の中に送り出してきた。この伝統ある灯を消すことがないよう引き続きご支援・ご協力を賜りたくお願い申し上げる。

報　告

１．日本医師会医療秘書認定試験委員会について

（日医医療秘書認定試験委員会富田雄二委員長）

８月20日㈬の第１回委員会にて，横倉日医会長から認定試験の円滑な実施と合否案の策

定および試験結果の分析評価を行うようにとの諮問を受けた。今期は新課程・旧課程の２種類の問題を作成するため，委員会の回数を増やして対応する。現在，問題の選定に入っており，12月には終了する予定である。本年度の試験は，２月８日㈰に各学院にて実施された後，委員会で合否原案を策定し，日医常任理事会にて決定を経て，２月27日㈮に合格者の発表である。

新教科書について，第１巻「健康とは，疾病とは」の策定が遅れ，大変ご迷惑をおかけしている。ようやく執筆者からほとんどの原稿が提出され，監修作業に入っている。

２．各学院の現況調査結果について

医療秘書養成を行っている11県から，現況調査結果に基づき報告があった。

就職に関しては順調な学院が多いようであるが，医療事務としての採用が中心であり，医療秘書としての採用はまだまだ少ないようである。医療秘書としての募集があっても，経験者や診療情報管理士取得見込み者を希望される場合が多い。学生の入学状況が厳しい学院もあり，入学者の確保が課題である。

卒業後の待遇として，各事業所等には日医認定医療秘書を取得した者には１万円の資格手当を支給するようにお願いしているという学院もある。医療機関から求められるものが年々高くなっているため，教育としては即戦力，特にコミュニケーション能力を強化し，人材要請に応えられるようにしているとの報告もあった。

また，「新旧の試験の出題形式等は新旧共に変更がないのか」という質問があり，富田委員長は「コミュニケーション論の科目が新しく入るため，個々の出題の割合は変わるが，大きな分類では変更しない。出題形式も変えない」と回答した。

３．医療保険請求事務実技試験委員会について

（奥村秀定常任委員）

試験日の統一について，以前から常任委員会にて要望が出ており，例年は10月下旬から11月上旬で１～２週間の幅があるが，今年度は，すでに日程が決まっており難しいという学院もあるため，11月２日㈰の前後でお願いした。来年度に向けて常任委員を中心として統一を諮るよう検討していきたい。

「医療保険請求事務実技試験の試験日統一の動きがあるが，学園祭の日程の変更ができないため，ご配慮いただきたい」との要望があり，「常任委員会にて日程について各県と協議して，各学院の事情等を十分踏まえて調整していきたい」との回答があった。

協　議

平成25年度収支決算，平成26年度事業計画(案)・収支予算(案)について報告があり，原案通り承認された。次期当番県は富山県医師会に内定していることが報告され，承認された。

総　括（釜萢敏日医常任理事）

医療秘書認定試験委員会では，新旧教科書に対応する２種類の試験問題案について，選定・検討を行っている。今年度と来年度は特に試験実施に関して混乱が生じないよう十分配慮して参りたいので，ご協力をお願いしたい。今年度４月から埼玉県および岡山県医師会が養成を開始した。さらに来年４月開始に向けて１校が準備を進めている。さらなる拡大に向けて引き続き努力して参りたい。「一人の医師に一人の医療秘書」という体制が求められる時代が来ると思われる。中医協の担当役員を通して，医療秘書の待遇等について更なる充実を国に要請して参りたい。

次期当番県医師会長挨拶

（富山県医師会村上美也子副会長）

来年の定例総会は，平成27年９月26日㈯に富山県のＡＮＡクラウンプラザホテル富山にて開催する予定である。

出席者－富田副会長，瀬戸山主事

日医インターネットニュースから

■患者申出療養，改良型として評価
― 中川副会長 ―

中川俊男副会長は10月２日，日医と厚生労働省が開いた社会保険指導者講習会で患者申出療養(仮称)に言及し，患者アクセスの面で効果が見込めることや，症例が集積されることで保険適用までの期間が短縮されることに期待を示した。また，国民皆保険堅持に向けた考え方は従来から一貫しているとし，「われわれは一歩も引いていない」と述べた。

中川副会長は保険外併用療養の中の評価療養を高く評価する一方，「まだまだ改善して，進化させる余地がある」と述べ，患者アクセスに言及。先進医療Ａ，Ｂともに最も実施されている技術を除けば「１技術当たり実施医療機関」が低い点を挙げ，「(対象の)医療機関の近くに住んでいたり，通院している人以外はせっかくの先進医療を受けられないという事実がある」「実際には，一部の患者のみ先進医療が実施されているという点は反省をしなければならない」として，“評価療養の改良型”とも言える新たな枠組みを通じた患者アクセスの改善に期待を示した。

また，規制改革会議が３月末に「選択療養」を提案した当初と比較し，６月に示された同会議の答申に安全性・有効性の確認や将来的な保険収載を目指す点が盛り込まれたことを振り返り，今後も▽公的医療給付範囲の維持▽混合診療は全面解禁しない▽株式会社を医療機関経営に参入させない―という方針を堅持する認識を示した。（平成26年10月７日）

■働きやすい環境整備，医療機関の課題は
― 女性医師応援懇談会 ―

厚生労働省は10月３日の「女性医師のさらなる活躍を応援する懇談会」（座長＝山本纐子・日本医師会理事・日本女医会長)に，年内の報告書の取りまとめに向けてたたき台を提示した。女性医師が働きやすい環境整備の進め方について，方向性などをまとめた。

たたき台は「女性医師が働き続けやすい環境整備にかかる基本的な考え方及び課題について(案)」と題し，環境整備について「医療機関等における環境整備」と「医療機関以外における環境整備」に分けて記載した。

医療機関などについては＜１＞勤務体制＜２＞診療体制＜３＞保育環境＜４＞復職支援＜５＞相談窓口等＜６＞職場の理解―の各項目ごとに，それぞれの課題や課題解決に向けて取り組む方向性，取組み例を示した。

勤務体制では「働き続けやすい柔軟な勤務形態をとれるような工夫」や「職場全体の公平感を得られるような工夫」などが重要と指摘し，短時間正規雇用や交代制勤務，当直や時間外勤務への配慮などを具体的な取組み例として紹介した。診療体制の関連では医師事務補助者の活用などを挙げ，育児中の医師を含めた医師全体の負担を軽減するとともに，職場全体の勤務環境の改善につなげることができるとした。医療機関以外については，医学生や若い医師に対するライフイベントも考慮したキャリア教育の提供とその普及啓発，都道府県の医療勤務環境改善支援センターを活用するキャリア形成支援などを挙げた。

日本医師会の笠井英夫常任理事は，医療機関以外での環境整備に挙げられた事項は日医として既に取り組んでいることを指摘。「問題は(日医が)取り組んでいるということが当事者に届いていないこと」と述べ，さらに周知徹底に取り組む考えを示した。（平成26年10月７日）

■会員情報システムの再構築に意欲
― 横倉会長 ―

横倉義武会長は10月19日，複数の都道府県医師会と会員情報を共有することで入退会手続きの簡素化などを図る試行的な事業の実施を検討していると明かした。

横倉会長は広島市で開かれた十四大都市医師会連絡協議会の講演で，将来的な組織強化などにつなげるため日医会員情報システムの再構築に意欲を見せた。以前から勤務先を変更した際などに必要な入退会手続きの煩雑さが指摘されていると説明し，日医と都道府県医が会員情報を共有化して手続きの簡素化につなげていく必

要性に言及。今年度中にも複数の都道府県医と会員情報の共有を進める試行事業を実現させたいと意欲を示し，「郡市区医師会，都道府県医師会から日本医師会への入会の徹底などを行いながら，日本医師会の基本理念を推進できるような組織にしていきたい」と述べた。

●日医雑誌など電子化を検討

日医雑誌を電子書籍化し，希望者に提供することも検討していると明かした。ペーパーレス化への対応や，会員の利便性向上などを図るもので，非会員の加入促進の一助につなげたり，印刷費や送料の軽減としても効果を生むと説明した。

●勤務医らの入会意識「高まっている」

また，先に開かれた勤務医委員会の議論を振り返り，若手医師や勤務医の間で医師会に対する認識が高まっているとの見解を示した。社会保障・税一体改革によって医療提供体制が大きな転換期を迎えているとし，「勤務医も自分たちの医療機関がどのようになるのかという思いから，医師会に結集してくる意識が高まってきている」と発言。「大きな変革期であるが，（医師会の）組織を強くする機会だろうと思っている」と期待を述べた。（平成26年10月24日）

■医療番号「マイナンバー」で議論へ
― 厚労省・研究会 ―

厚生労働省は10月22日，「医療等分野における番号制度の活用等に関する研究会」（座長＝金子郁容・慶応大教授）に，医療分野などで番号制度の活用が想定される具体的な場面を整理して提示した。2016年１月から始まる社会保障・税番号制度（マイナンバー制度）の枠組みで自治体や保険者が利用するケースと，医療機関同士でのやり取りなど民間が利用するケースの２つに分けて議論することを提案した。

マイナンバー制度で想定される活用場面としては，▽医療保険のオンライン資格確認▽保険者間の連携▽予防接種の履歴管理▽全国がん登録―の４つを提示。一方，民間利用では，病院での検査結果をかかりつけ医の診療に活用する場合や，紹介・逆紹介で患者を継続的に診察するなど，医療機関が地域レベル・複数地域間で連携する場面を挙げた。また，コホート研究など健康・医療の研究分野での利用も挙げた。

民間利用に関する議論を進める上での検討課題としては，▽住民票情報など（個人番号で管理する）特定個人情報とのひもづけが必要かどうか▽本人同意なしに利用することがなじむかどうか▽医療情報に特有の公益性・要保護性を考慮したルールの整備―などを挙げた。構成員からは，各個人が見られたくない疾患情報などの開示拒否の是非を検討すべきとの意見などが出された。

厚労省は同日の議論を踏まえ，たたき台を提示し，年内に意見を取りまとめる方針。

●希望者のみが活用できる仕組みで

同日の会合では，日本医師会常任理事の石川広己構成員が，医療分野での番号（医療等 ID）を活用する場合は，国民全員に付番する“悉皆性”は不要で，希望者のみが利用できる枠組みにすべきとの考えを示した。また，「医療等 ID」を疾患の種類によって使い分けることや，一個人が複数 ID を保持することも可能にすべきとした。（平成26年10月24日）

このコーナーの記事は“日医インターネットニュース”から抜粋して掲載していますので，詳細を知りたい方は日本医師会ホームページでご覧ください。毎週火・金に更新していますので全ての記事が閲覧できます。

日医インターネットニュースへのアクセス方法
日本医師会（http://www.med.or.jp/）にアクセス
日本医師会ホームページ右上のメンバーズルームをクリック

メンバーズルームに入る方法
ユーザー ID：会員 ID 番号（日医からの送付物の宛名シール下部に印刷されている10桁の数字）を０も含め，全て半角で入力
パスワード：先生の生年月日の６桁の数字を半角で入力
例）1961年５月１日生まれの場合，610501

薬事情報センターだより（330）

新薬紹介（その73）

今回は９月に薬価収載された抗悪性腫瘍剤オプジーボ点滴静注20mg・100mg（一般名：ニボルマブ（遺伝子組換え））と結核化学療法剤デルティバ錠50mg（一般名：デラマニド）について紹介いたします。

オプジーボ点滴静注20mg・100mg（一般名：ニボルマブ（遺伝子組換え））

オプジーボ点滴静注（一般名：ニボルマブ（遺伝子組換え））は，小野薬品工業株式会社とメダレックス社（現ブリストル・マイヤーズ スクイブ社）が開発した世界初のヒトPD-1（Programmed cell death-1）に対するヒト型IgG4モノクローナル抗体です。PD-1のPD-1リガンド（PD-L1及びPD-L2）結合領域に結合し，PD-1とPD-1リガンドとの結合を阻害することにより，がん抗原特異的なT細胞の活性化及びがん細胞に対する細胞傷害活性を増強すること等で，腫瘍増殖を抑制すると考えられています。

本剤は，「根治切除不能な悪性黒色腫」を効能・効果として，2014年７月に承認され，９月に小野薬品工業株式会社から発売されました。我が国では，1980年代半ばに，インターフェロン ベータ製剤，ダカルバジンが承認されて以来の悪性黒色腫に対する製剤です。

また，腎細胞がんを対象にした国際共同臨床第III相試験や，非小細胞肺がん，食道がんを対象とした国内第II相試験など，複数の臨床試験が実施中であり，今後，効能・効果の追加が期待されます。

ダカルバジンによる化学療法歴を有する根治切除不能なIII期/IV期又は再発の日本人悪性黒色腫に対する奏効率は22.9%（8/35例：90%信頼区間[13.4,36.2]），全生存期間中央値は473.0日（90%信頼区間[276.0,-]）でした。

国内第II相試験の安全性評価対象35例中30例（85.7%）に副作用（臨床検査値異常を含む）が認められました。主な副作用は，そう痒症11例（31.4%），遊離トリヨードチロニン減少８例（22.9%），血中TSH増加７例（20.0%）等でした（承認時）。なお，重大な副作用として，間質性肺疾患，肝機能障害，肝炎，甲状腺機能障害，Infusion reactionが報告されています。

デルティバ錠50mg（一般名：デラマニド）

デルティバ錠（一般名：デラマニド）は，大塚製薬株式会社により見出された，結核菌に対して特異的に作用する新規作用機序を有する薬剤です。本剤の作用機序は，結核菌が有するF_{420}関連酵素群で活性化され，結核菌に特有なメトキシミコール酸及びケトミコール酸の合成を用量相関的に阻害することです。

本剤は，欧州で2014年４月に承認されました。また，イギリスで発売されています（2014年６月現在）。本邦では，「多剤耐性肺結核」を適応症として，2014年７月に承認され，９月に大塚製薬株式会社から発売されました。我が国では，1970年代にリファンピシンが登場して以来，約40年ぶりの新しい系統の抗結核薬の新薬です。本剤の使用にあたっては，耐性菌の発現を防ぐため，原則として他の抗結核薬及び本剤に対する感受性（耐性）を確認し，感受性を有する既存の抗結核薬３剤以上に上乗せして併用することとされています。

多剤耐性肺結核患者を対象とした国際共同試験において安全性解析対象症例395例中（日本人10例を含む），臨床検査値の異常を含む副作用が208例（日本人２例を含む）（52.7%）に認められました。主な副作用は，不眠症48例（12.2%），頭痛41例（10.4%）等でした。また，重大な副作用として，QT延長があらわれることがあります。

なお，本剤に対する耐性菌出現防止及び適正使用の推進のため，本剤投与は大塚製薬株式会社が行うRAP（Responsible Access Program）の適格性確認システムに登録された医師・薬剤師のいる登録医療機関・薬局において，登録患者に対して行うこととされています。

〈参考資料〉

オプジーボ点滴静注20mg・100mg，
デルティバ錠50mg各添付文書・
インタビューフォーム

（宮崎県薬剤師会薬事情報センター
永井　克史）

お知らせ

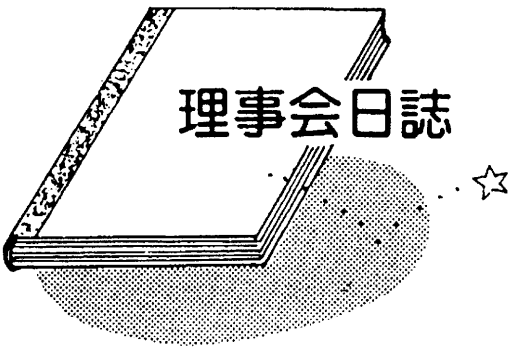
平成26年度日本医師会認定医療秘書養成制度
卒業生求職のお願い

宮崎県医師会では，日本医師会認定医療秘書養成を県内３教育機関に委託しております。日本医師会医療秘書認定試験の合格を目指し，医療事務に必要な知識，最新の情報処理技能などの資格を備えるとともに，医療機関の今日的な使命を自覚し，誠実さと思いやりの心を大事にする人間形成にも力を入れています。

今年度，医療事務職員採用のご予定がございましたら，何卒，県内３教育機関からご採用いただきますようご検討をお願いいたします。

なお，求職に関するお問い合わせ等につきましては，直接各教育機関の担当者までご連絡くださるようお願い申し上げます。

宮崎学園短期大学 （宮崎市）	宮崎医療管理専門学校 （宮崎市）	都城コアカレッジ （都城市）
就職希望者18名 （女18名）	就職希望者14名 （男１名，女13名）	就職希望者８名 （女８名）
連絡先：℡ 0985-85-0146 宮崎市清武町加納丙1415 担当：佐土原　敦 倉永　愛子	連絡先：℡ 0985-86-2271 宮崎市田野町甲1556-1 担当：平島しおり 福元　　進	連絡先：℡ 0986-38-4811 都城市吉尾町77-8 担当：吉原真由美 中山さおり



平成26年９月９日(火)第15回常任理事協議会

医師会関係

（議決事項）

１．本会外の役員等の推薦について

①日本医師会の委員会委員の委嘱について

→地域対策委員会に富田副会長，定款・諸規定検討委員会に立元常任理事，医療ⅡT委員会に荒木常任理事，勤務医委員会に金丸常任理事が委員として委嘱されることが承認された。

②宮崎県メディカルコントロール協議会委員の推薦について

→救急業務の高度化を推進するための協議会で，役員改選に伴う後任の推薦依頼であり，小牧常任理事を推薦することが承認された。

２．後援・共催名義等使用許可について

①2014年度宮崎キュアケアネットワーク市民型フォーラム名義後援のお願いについて

→豊かな人生の最期のために～わたしの想いをつなぐノート(私の最期の意思表示)～をテーマに開催される市民参加型フォーラムで，名義後援を行うことが承認された。

②宮崎県 平成26年度民間団体による地域の絆づくり事業 だんだん自殺減少への絆プロジェクト名義後援について

→自殺のない地域社会づくりを目指して，県が民間団体に地域の絆づくり事業を募集して採択された自殺予防活動で，名義後援を行うことが承認された。

３．平成26年度 死体検案研修会(上級)の開催について

上級の研修会開催案内であり，県警察医会員，県医警察活動に協力する医師の部会(仮称)の会員に照会することが承認された。

４．2014宮崎県医師会 会員名簿作成要領について

隔年で作成している会員名簿について，個人情報保護の観点から，掲載項目について会員の意向を確認した上で，前回同様の形で作成することが承認された。また，ＭＭＡ通信への参加の観点から，メールアドレスの登録についても，併せて確認することとなった。

５．平成26年度宮崎県総合防災訓練に係る広域医療搬送訓練関係者会議の開催について

事務局対応が承認され，10/19(日)の総合防災訓練については担当の小牧常任理事が出席することとなった。

６．都道府県医師会難病・小児慢性特定疾病担当理事連絡協議会の開催について

テレビ会議システムにより，難病担当の池井常任理事，小児担当の高村常任理事の参加が承認された。

７．業務委託について

①宮崎県主治医研修の業務委託契約について

→主治医意見書等の記載がより適切に行われるよう記載方法等について研修を実施し，適切な要介護認定等の実施に資することを目的とする委託契約で，契約を締結することが承認された。

（報告事項）

1．週間報告について

2．9/4㈭（JA-AZM本館）社会保険医療担当者（医科）の個別指導について

3．9/3㈬（わらしべ）土曜会（報道機関支局長の会）との懇談会について

平成26年9月16日㈫第16回常任理事協議会

医師会関係

（議決事項）

1．10/9㈭（延岡）九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者（医科）の個別指導の実施に係る立会について

　1医療機関を対象に行われる病院の個別指導で，立元常任理事を立会人として派遣することが承認された。

2．9/30㈫（宮観ホテル）各郡市医師会長協議会について

　進行等の再確認を行い，9/16の都道府県医師会長協議会の他に，新たな財政支援制度の現状報告を行うことが承認された。

3．9/30㈫（宮観ホテル）宮崎大学医学部教授等と宮崎県医師会役員等との懇談会について

　進行等の再確認と出席者の確認が行われ，原案通り承認された。

4．第114回九州医師会連合会総会における宣言・決議（案）について

　基本的には大分県の意見を尊重し，決議（案）にTPPのことを記載しなくて良いのかと，「地域医療存続に対する人的・財政的支援」の人的支援が上記の勤務医，女性医師，看護師等を指しているのかを確認することが承認された。

5．地域高規格道路「都城志布志道路」の予算確保と早期整備に係る署名運動への協力について

　協力することが承認され，県医師会役職員並びに各郡市医師会の役職員に協力をお願いすることとなった。

6．後援・共催名義等使用許可について

①11/1㈯（県看護等研修センター）新人看護職員研修責任者等合同研修名義後援の申請について

→新人看護職員研修等の問題点や課題を明らかにして，看護職員の着実な技術向上を図ることを目的に開催されるものであり，名義後援を行うことが承認された。

②H27.1/8㈭（メディキット県民文化センター）平成26年度宮崎県社会福祉大会に対する後援名義の使用許可について

→社会福祉活動の発展に功労のあった方々の顕彰並びに地域福祉の更なる充実に向けた啓発を目的に開催される大会で，名義後援を行うことが承認された。

③11/28㈮（県医）TKCクリニック経営セミナー2014への後援依頼について

→クリニックの経営体質の強化を支援する目的で開催されるセミナーであり，日本医師会も後援しており，名義後援を行うことが承認された。

④11/14㈮（県立日南病院）医療従事者のための多文化講座（日南市）開催の共催依頼について

→外国人患者に対応できる医療体制の充実を目的に，県内の医療機関に勤務する医療従事者を対象に日南市において開催される講座で，共催することが承認された。

7．11/16㈰（日医）平成26年度日本医師会医療事故防止研修会の開催について

　前向きな医療安全の構築を目指し，医療従事者がポジティブになり，結果として事故を未然に防げることを目的に開催され，小牧常任理事が出席することと，会員へ案内することが承認された。

（報告事項）
１．週間報告について
２．９/4(木)（日医）日医医療情報システム協議会運営委員会について
３．９/12(金)（日医）日医医療秘書認定試験委員会について
４．９/12(金)（県医）広報委員会について
５．９/11(木)（県医）県糖尿病対策推進会議幹事会について
６．９/13(土)（県医）園医部会理事会について
７．９/13(土)（県医）園医部会総会・医学会について

医師連盟関係
（議決事項）
１．10/6(月)（ホテルメリージュ）参議院議員 長峯誠モーニングセミナーの案内について
　診療時間内であり，欠席することが承認された。

（報告事項）
１．９/9(火)（日医）日医連執行委員会について
２．９/10(水)（宮観ホテル）三師会懇談会について

平成26年９月30日(火)第５回全理事協議会

医師会関係
（議決事項）
１．10/16(木)（JA-AZM本館）九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者（医科）の個別指導の実施に係る立会について
　６医療機関を対象に行われる個別指導で，金丸常任理事を立会人として派遣することが承認された。
２．11/18(火)（日医）第２回都道府県医師会長協議会の開催について
　河野会長の出席と提出議題については会長に一任し，役員で質問事項がある場合は，後日申し出ることとなった。また，この第２回都道府県医師会長協議会の報告を兼ねて，11/25(火)に第２回各郡市医師会長協議会を開催することが承認された。
３．H27.1/24(土)（大分）九医連平成26年度第２回各種協議会の開催種目について
　例年，医療保険，地域医療，介護保険・在宅医療が開催種目となっているが，他に協議したい項目がないかを検討するため，次の常任理事協議会で，再度協議することとなった。
４．本会各種委員会について
　県医師会内に設置される29の委員会（治験審査委員会含む）の内，すでに決定している２つの委員会を除く，27の委員会について確認作業が行われ，定款第57条並びに県医師会委員会規程に基づき，委員構成並びに委員長・副委員長が決定・承認された。
５．10/19(日)（延岡・日向・門川）平成26年度県総合防災訓練へのJMAT（災害医療チーム）の派遣について
　県北での訓練へのJMATの３チームの派遣依頼であり，東日本大震災時の本会JMATチームを中心に，延岡市・日向市東臼杵郡医師会と調整することと，県庁の県災害対策本部へは担当の小牧常任理事の出席が承認された。
６．日医ニュース「都道府県医師会だより」原稿投稿の依頼について
　日医ニュースに都道府県医師会だよりのコーナーが新設され，都道府県医師会として独自の取組みや活動を掲載し，全国に紹介することになり，役員で掲載する記事があれば事務局に申し出ることとなった。
７．宮崎産業保健総合支援センター運営協議会委員の推薦について
　センターの運営について，事業の評価，効果的な運営，関係機関との連携等について意見交換を行い，円滑な運営のための課題に対処する方策等を検討する協議会であり，佐々

木(幸)常任理事，川野理事を推薦することが承認された。

8．12/6(土)(福岡)平成26年度九州学校検診協議会第2回専門委員会の開催について

九州学校検診協議会の心臓検診委員に髙村常任理事の他，髙木純一先生を新たに追加することが承認された。

9．10・11月の行事予定について

10月の追加行事と11月の行事について確認が行われた。

10．その他

①日医電子認証センターの地域受付審査局の設置について〔荒木常任理事〕

→9月18日，日医電子認証センターの地域受付審査局(LRA)が本会に設置され，医師資格証の申請，受付が可能となった。医師資格証は身分証としての活用のほか，カードに格納されたICチップにより「電子署名」と「認証」の機能も有する。初年度の登録料は無料となっており，申請書は後日郵送することとし，役員に加入依頼が行われた。

(報告事項)

1．9/4(木)(宮観ホテル)宮崎銀行経営説明会について

2．9/10(水)(支払基金)支払基金幹事会について

3．9/20(土)(大分)九医連常任委員会について

4．9/25(木)(シーガイア)日本看護学会学術集会開会式について

5．9/30(火)(ひまわり荘)地方公務員災害補償基金県支部審査会について

6．9/27(土)(宮城)全国医師会医療秘書学院連絡協議会常任委員会，定例総会・運営委員会について

7．9/20(土)(大分)九医連各種協議会について

8．9/29(月)(県庁)准看護師試験問題調整委員会について

9．9/18(木)(日医)都道府県医師会救急災害医療担当理事連絡協議会について

10．9/18(木)(県医)日医認証局LRA説明会について

11．9/22(月)(県医)広報委員会について

12．9/19(金)(宮観ホテル)医療現場のワークライフバランスセミナーについて

13．9/26(金)(日医)日医大学医学部・医学会女性医師支援担当者連絡会について

14．9/16(火)(県医)日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講習会打合せ会について

15．9/22(月)(宮観ホテル)みやざき若手医師キャリアプラン講演会・交流会について

16．9/23(火)(福岡)九州ブロック初期・後期臨床研修進路説明会，実行委員会について

17．9/25(木)(県医)地域リハビリテーション広域支援センター連絡会議について

18．9/25(木)(県医)産業医部会理事会について

19．9/27(土)(県医)産業医研修会(前期)について

20．9/6(土)(県医)県医医学会について

21．9/8(月)(県医)医学会誌編集委員会について

22．9/18(木)(JA-AZM別館)社会保険医療担当者(医科)の集団的個別指導について

23．9/24(水)(宮崎労働局)労災診療指導委員会について

24．9/25(木)(県医)労災部会自賠委員会，損害保険医療協議会について

医師国保組合関係

(報告事項)

1．9/29(月)(うめ田)医師国保組合理事会，退任役員慰労会について

医師協同組合理事・運営委員合同協議会

(報告事項)

医協理事・運営委員合同協議会

医師連盟関係

(議決事項)

1．10/11(土)(JA-AZM別館)自民党県連支部長会の開催について

河野委員長の出席が承認された。

平成26年10月7日(火)第17回常任理事協議会

医師会関係

（議決事項）

1．健康教育事業費補助事業について

公益社団法人への移行に伴い，公益を意識した事業として，県民向けの健康教育の推進事業を，各郡市医師会，各専門分科医会等が実施した際に，事業費の1/2以内の20万円を限度で年1回補助する新たな事業が承認された。なお，平成26年度の補助金総額は100万円以内を予定している。

2．10/30(木)(JA ＡZM本館)九州厚生局及び宮崎県による社会保険医療担当者(医科)の個別指導の実施に係る立会について

6医療機関を対象に行われる個別指導で，小牧常任理事を立会人として派遣することが承認された。

3．本会外の役員等の推薦について

①宮崎県地域医療支援機構代表者会議の委員就任及び代表者会議の開催について

→医師不足，医師の地域偏在の解消ため，県，宮大，県医師会及び市町村が密接に連携し，協議するための機構であり，会長への就任依頼及び会議への出席案内であり，会長の就任と会議に出席することが承認された。

②宮崎県地域医療支援機構代表者会議の委員推薦等について

→役員改選に伴う後任の推薦依頼であり，金丸常任理事を推薦することが承認された。

4．後援・共催名義等使用許可について

① 10/10(金)(宮大)日伊科学技術宮崎国際会議2014シンポジウム後援名義使用許可について

→日本・イタリアの科学技術と市民交流を目的に開催されるシンポジウムと市民フォーラムで，名義後援を行うことが承認された。

② 11/15(土)(キテンビル)漢方県民講座後援依頼について

→県民の健康増進に関わる漢方の知識を正しく伝えるための講座で，名義後援を行うことが承認された。

5．11/5(水)(日医)平成26年度第2回都道府県医師会税制担当理事連絡協議会開催について

立元常任理事の出席が承認された。

6．遺伝性血管性浮腫(HAE)の啓発協力依頼について

身体の様々な部位に突然局所的な浮腫が出現し，多彩な症状をきたす疾患であり，この疾患を認知していれば診断は比較的容易であり，医療機関の宛名ラベルを実費販売し，本会が了承した文書，医師・患者用ポスター等を入れてメーカーから各医療機関に郵送して啓発することに協力することが承認された。

7．第114回九州医師会連合会総会における宣言・決議(案)について

9/20の九医連常任委員会での修正案の再確認依頼で，文面等の確認が行われ承認された。

8．H27.1/24(土)(大分)九医連平成26年度第2回各種協議会の開催種目について

協議題については，1．地域医療対策協議会，2．医療保険対策協議会，3．介護保険・在宅医療対策協議会の順番で要望する事が承認された。

9．H27.4/11(土)～13日(月)(京都)第29回日本医学会総会2015関西の開催について

4年毎に開催されており，今回の京都での総会に理事への出席要請が行われ，出欠については10月末日までに事務局へ回答することが承認された。

10．定期健康診断における脊柱側わん検査について

現在，健康づくり協会で実施しているモアレ写真検査による脊柱側わん検査については，ランプを含めた機材のサポート期間終了により，27年度から内科検診で実施するようにとの文書が県教育長から届いている。引き続きモアレ写真検査が行われるよう要望するとともに，関係機関と協議を持ちながら，最善の検査が行われるように検討することが承認された。

（報告事項）

1．週間報告について

2．９月末日現在の会員数について

3．10/6(月)(県庁)県立看護大学あり方検討委員会について

4．10/4(土)(県医)県警察医会総会・特別講演会について

5．10/7(火)(県医)治験理事会について

医師連盟関係

（議決事項）

1．10/11(土)(JA ＡＺＭ)憲法改正研修会の案内について

佐々木(幸)常任執行委員が出席することが承認された。

2．10/11(土)(JA ＡＺＭ)自民党宮崎県第一選挙区支部選挙対策準備会の案内について

事務局対応が承認された。

3．11/1(土)(河野しゅんじ後援会事務所)事務所開き案内について

事務局対応が承認された。

4．一般財団法人国民政治協会宮崎県支部からの寄附要請について

自民党唯一の政治資金団体であり，九州各県の協力状況も参考にし，協力することが承認された。

5．その他

①自民党税制調査会役員名簿について

→平成27年度医療に関する税制改正要望について，自民党税制調査会幹事の古川禎久衆議院議員に佐々木(幸)常任執行委員が説明を行うことが承認された。

（報告事項）

1．10/4(土)(宮観ホテル)県医連臨時執行委員会について

2．10/4(土)(宮観ホテル)医政活動推進事業研修会について

宮崎県医師会メーリングリストのご案内

宮崎県医師会では「MMA通信」と「会員交流用メーリングリスト」の２本立てでのメーリングリストの運用をしています。

◆MMA通信

目的：県医師会から会員への情報提供(各種通知文書，研修会の案内等)

対象：会員本人，医療機関代表のアドレスなど

◆会員交流用メーリングリスト

目的：会員同士の意見交換，会員からの情報提供

対象：会員本人のみ

災害が発生した場合，情報の収集および発信手段は複数確保することが必要です。
まだ登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。

お問い合わせ先：宮崎県医師会　地域医療課

TEL　0985-22-5118

県医の動き

（10月）

1	日医社保指導者講習会（日医）（上田理事）
2	日医社保指導者講習会（日医）（上田理事）
3	産業医研修会（延岡）
4	日医「2020.30」推進懇話会（日医）（糸数理事） 県警察医会総会・特別講演会（会長他） 県医連臨時執行委員会（河野委員長他） 医政活動推進事業研修会（河野委員長他） 医政活動推進事業等懇談会（河野委員長他）
6	県立看護大学あり方検討委員会（会長）
7	治験理事会（富田副会長他） 第17回常任理事協議会（会長他）
8	日本スポーツ振興センター学校安全業務運営会議（高村常任理事） 支払基金幹事会（会長） 日医医療秘書認定試験委員会（日医）（富田副会長） 宮崎市との妊婦乳児公費負担に関する協議（濱田副会長）
9	産業保健活動推進全国会議（日医）（佐々木常任理事） 社会保険医療担当者（医科）の個別指導（延岡）（立元常任理事） みやざき愛の献血運動推進県民大会（会長） 産業医研修会（延岡） 県産婦人科医会常任理事会（濱田副会長他）
10	日医医療秘書認定試験委員会（日医）（富田副会長） 県有床診療所協議会打合せ（立元常任理事他）
11	ICLS指導者養成ワークショップ 自民党宮崎県支部長会（河野委員長） 憲法改正研修会（河野委員長他）
12	ACLS研修会
13	かかりつけ医機能強化研修会（日医在宅医リーダー研修会）（日医）（佐藤理事） かかりつけ医機能強化研修会（日医在宅医リーダー研修会）（TV会議）（牛谷常任理事）
14	治験審査委員会（富田副会長他） 第18回常任理事協議会（会長他） 日本プライマリ・ケア連合学会九州支部総会・講習会実行委員会（金丸常任理事他）
15	県歯科保健推進協議会成人期部会（荒木常任理事） 都道府県医師会難病・小児慢性特定疾病担当理事連絡協議会（TV会議）（池井常任理事他） 県総合計画審議会くらしづくり部会（会長）
16	社会保険医療担当者（医科）の個別指導（金丸常任理事） 宮大経営協議会・学長選考会議（会長） 日医地域医療対策委員会（日医）（富田副会長） 県内科医会学術委員会（小牧常任理事） 広報委員会（荒木常任理事他）
17	日医予防接種・感染症危機管理対策委員会（日医）（峰松理事） 日医勤務医委員会（日医）（金丸常任理事）
18	産業医研修会（実地）（佐々木常任理事） 九州医師協同組合連合会通常総会（熊本）（富田理事長他）
19	県総合防災訓練（小牧常任理事） 九州医師協同組合連合会通常総会（熊本）（富田理事長他） 清山知憲県議県政報告会（河野委員長）
20	パーキンソン病部会（池井常任理事）
21	県訪問看護推進協議会（池井常任理事） 県医療審議会（会長） 医協打合せ会（立元副理事長） 第19回常任理事協議会（会長他）
22	県医療分野『雇用の質』向上企画委員会（牛谷常任理事） 宮崎市郡医師会例会・しののめ医学会・特別講演会（会長） 病院部会・医療法人部会介護保険制度改革に関する懇談会
23	産業医研修会 日医医療情報システム協議会運営委員会（日医）（富田副会長） 県産業保健連絡協議会等（濱田副会長他） 県プライマリ・ケア研究会学術広報委員会（金丸常任理事）
24	広報委員会（荒木常任理事他） 県知事選挙対策合同会議（河野委員長他）
25	全国医師会勤務医部会連絡協議会（神奈川）（金丸常任理事他） 日本保育園保健学会（東京）（高村常任理事） 県訪問看護ステーション連絡協議会総会・研修会（富田副会長他）
26	日本保育園保健学会（東京）（高村常任理事）
27	宮大医学部・県医・県福祉保健部との協議（会長他） 治験セミナー（TV会議）（小牧常任理事他）
28	地域医療現場における働きやすい環境を考える会検討会（荒木常任理事） 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会（会長） 医協理事会（富田理事長他） 第6回全理事協議会（会長他） 医協理事・運営委員合同協議会（会長他）
29	労災診療指導委員会（川野理事） 小児救急医療電話相談事業運営協議会（高村常任理事他） 医師国保組合理事会（秦理事長他）
30	全国自治体病院学会開会式・総会（会長） 社会保険医療担当者（医科）の個別指導（小牧常任理事） 宮大医学部医学科外部評価（訪問調査）（会長） 日医医療秘書認定試験委員会（日医）（富田副会長） 日医医療ⅡT委員会（日医）（荒木常任理事） 県有床診療所協議会役員会（濱田副会長他）
31	医療安全対策セミナー（TV会議）（富田理事長他）

「保険管理表」作成サービスのご案内

追悼のことば

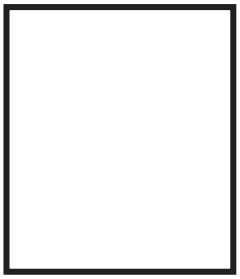
都城市北諸県郡医師会

淵脇次男（ふちわきつぎお）　先生

（大正10年10月27日生　92歳）

弔　辞

本日ここに，故淵脇次男先生のご葬儀が執り行なわれるにあたり，都城市北諸県郡医師会を代表いたしまして，心より謹んでお別れの言葉を申し上げます。



先生は，これまで地域医療一筋にご活躍をされてこられました。

先生が今年の４月頃に体調を崩され，都城市郡医師会病院に入院，８月頃には退院され自宅療養をされておられましたが，先月，再度体調を崩され都城市内の医療機関にご入院されているとお聞きいたしておりましたので，私ども会員一同，一日も早いご回復を念じておりました。

しかし，去る10月２日の午前８時37分，医療スタッフの懸命な治療やご家族の手厚い看護にもかかわらず，先生がご逝去されたとの突然の訃報を受け，痛恨の念に絶えず残念で仕方ありません。

先生急逝の知らせは，程無く全会員に伝えられ，会員一同，深い悲しみに包まれているところでございます。

ましてや，ご遺族の皆様方のお悲しみは，察するに余りあり，お慰めの言葉もありません。私ども医師会員一同，心より哀悼の意を表する次第でございます。

先生は，大正10年10月27日，男２人女１人の３人兄弟の次男として，田野町でお生まれになられました。長じて医学の道を志し，昭和19年に熊本医科大学附属医学専門学校をご卒業，翌昭和20年に陸軍軍医中尉として台湾にて医師としてのスタートをきられました。その後，昭和21年に台湾より復員，帰国後，飯田外科病院，国立都城病院内科・産婦人科・放射線科に勤務され，研鑽を積まれました。

昭和27年には鹿児島県財部町立国民健康保険診療所所長として勤務されておられます。昭和29年４月に鹿児島県財部町にて淵脇医院を開業され，昭和32年には医学博士の学位も取得されておられます。昭和37年４月に現住所へ移転，平成２年１月に医療法人社団高峯会（こうほうかい）いそいち産婦人科医院に名称変更しておられます。以来，医師として今日まで，永年にわたり，地域住民の医療，保健，福祉の向上に貢献をされてこられました。

先生は，私ども医師会活動におきましても，多忙な診療の傍ら，都城市北諸県郡医師会理事を昭和47年から４年間，監事を昭和61年から４年間，宮崎県産婦人科医会監事を平成２年から８年間にわたり歴任されました。

昭和25年頃に，子宮頸がんの細胞診の研究を行い，その後の検診や診療に役立ててこられ，60年以上もの永きにわたり献身的に地域の産科医療に携わってこられました。また，都城健康サービスセンターの検診医師を昭和61年から18年間務められ，地域住民の子宮がんの早期発見に多大なる貢献をいただきました。

その間，昭和45年の都城産科看護学院開校にご尽力され，都城看護専門学校の講師を通算22年間務められ，看護師の育成にも多大な貢献をされています。これらのご功績に対し，対ガン事業功労として，昭和60年に宮崎県対ガン協会理事長表彰，産科医療功労として，平成22年に厚生労働大臣表彰を受賞されておられます。

学校医活動におかれましては，昭和37年から

都城市立五十市中学校の学校医を30年間もの永きにわたり務められ，生徒の健康管理，保健衛生に精力的に取り組まれました。これらのご功績に対し，学校保健功労として，平成２年に都城市教育長表彰，平成８年に宮崎県教育長表彰を受賞されておられます。

一方，診療を離れると先生は，多趣味で若い頃は野球やゴルフをされたと伺っております。学校医をされていた五十市中学校の野球部のコーチとして，宮崎県ジュニア軟式野球大会初優勝にご貢献されたとお聞きいたしております。

また，小学生の頃より習われていた書道は，昭和46年に師範認定を取得される腕前で，日本書学館南九州支部長をされたと伺っております。

先生は，お子様が３人おられますが，ご子息の和男先生が医師としてすでにご活躍中であり，先生の後継者として立派にご意志を継いで地域医療に取り組まれておられますので，先生もさぞかしご安心のことと思います。

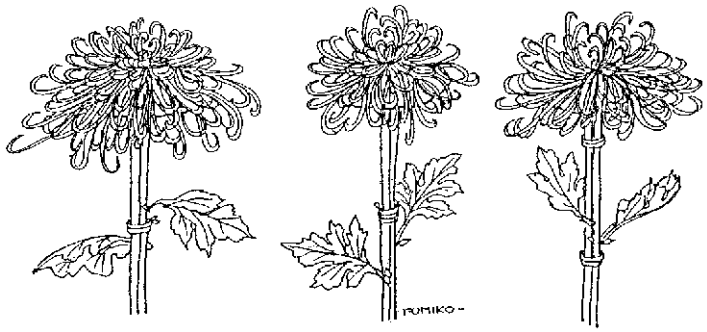
先生，これからは，遥か彼方より，ご子息のご活躍とご家族の安泰，ご繁栄，医師会の発展を末永く見守りください。

惜別の情，尽くし得ませんが，ここに謹んで先生のご霊前に哀悼の意を捧げ，先生がこれまで地域医療に傾けられましたご功績に対し，深い尊敬と感謝の念を表し，先生のご冥福を心よりお祈り申し上げ，お別れの言葉といたします。

平成26年10月４日

一般社団法人都城市北諸県郡医師会

会長　　飯　田　正　幸



新承認番号　団体所得保障保険

（SJNK14 -10785 平成26年10月28日作成）

ドクターバンク情報

（無料職業紹介所）　　平成26年10月16日現在

本会では，会員の相互情報サービスとしてドクターバンク（求人・求職等の情報提供）を設置しております。登録された情報は，当紹介所で管理し秘密は厳守いたします。
現在，下記のとおりの情報が寄せられております。お気軽にご利用ください。
お申込み，お問合せは当紹介所へ直接お願いいたします。
また，宮崎県医師会ホームページでも手続きと情報のあらましを紹介しておりますのでご覧ください。

1．求職者登録数　　4人

1）男性医師求職登録数　　4人　　（人）

希望診療科目	求職数	常勤	非常勤
内科	3	2	1
外科	1	1	0

2）女性医師求職登録数　　0人

2．斡旋成立件数　49人

	男性医師	女性医師	合計
平成26年度	1	1	2
平成16年度から累計	35	14	49

3．求人登録　　83件　　336人　　（人）

募集診療科目	求人数	常勤	非常勤
内科	96	72	24
外科	35	28	7
整形外科	27	22	5
精神科	19	17	2
循環器科	9	8	1
脳神経外科	12	9	3
消化器内科	14	11	3
麻酔科	12	8	4
眼科	6	5	1
放射線科	12	10	2
小児科	4	3	1
呼吸器内科	10	9	1
リハビリテーション科	3	3	—
総合診療科・内科	7	6	1
神経内科	7	6	1
救命救急科	6	6	—
健診	5	2	3
産婦人科	3	3	—
泌尿器科	1	—	1
検診	4	2	2
皮膚科	3	2	1
人工透析	4	4	—
在宅担当医	1	1	—
その他	36	30	6
合計	336	267	69

求　人　登　録　者（公開）

※求人情報は，申し込みが必要です。宮崎県医師協同組合，
無料職業紹介所（ドクターバンク）へお申し込み下さい。

※下記の医療機関は，公開について同意をいただいております。

登録番号	施　設　名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
160011	赤十字血液センター	宮崎市	検診	3	常勤・非常勤
160013	医）三晴会 金丸脳神経外科病院	宮崎市	脳外, 整, 放, 麻, 内	10	常勤・非常勤
160017	医）ブレストピア ブレストピアなんば病院	宮崎市	乳外, 内, 麻	3	常勤
160020	財）弘潤会 野崎病院	宮崎市	精, 内	2	常勤
160031	社医）同心会 古賀総合病院	宮崎市	呼, 神内, 眼, 総診, 呼外, 臨病, 乳外, 整外, 麻酔	11	常勤
160033	医）如月会 若草病院	宮崎市	精	2	常勤
170046	医）社団善仁会 市民の森病院	宮崎市	消内, 内泌糖内, 呼, リウマチ, 神経内 ,健診	6	常勤・非常勤
170048	医）慶明会 けいめい記念病院	国富町	内, 放, 在宅医療	3	常勤
170052	医）春光会	宮崎市	外, 内	6	常勤・非常勤
180082	国立病院機構宮崎東病院	宮崎市	内, 神内, 整, 消内	5	常勤
190087	宮崎市郡医師会病院	宮崎市	消内, 呼内, 総診	6	常勤
190094	医）耕和会 迫田病院	宮崎市	内, 外, 整	8	常勤・非常勤
190095	医）慶明会 宮崎中央眼科病院	宮崎市	眼	1	常勤
190096	医）晴緑会 宮崎医療センター病院	宮崎市	消化, 麻, 循 ,リハビリ	5	常勤・非常勤
200104	医）社団善仁会 宮崎善仁会病院	宮崎市	内, 外, 救急, 呼外, 婦人	7	常勤
200105	医）誠友会 南部病院	宮崎市	内, 外, 放	3	常勤
210110	医）幸秀会 大江整形外科病院	宮崎市	整	1	常勤
210118	慈英病院	宮崎市	内, 外 ,整	12	常勤・非常勤
230128	医）真愛会 高宮病院	宮崎市	内, 精	2	常勤
230132	医）康友会 青島クリニック	宮崎市	内	1	常勤
230134	医）慈光会 宮崎若久病院	宮崎市	精	1	常勤
230139	介護老人保健施設サンフローラみやざき	国富町	内, 外	2	常勤
230143	医）社団孝尋会 上田脳神経外科	宮崎市	脳外 ,内	2	常勤
230144	宮崎生協病院	宮崎市	総内 ,呼吸内 ,消化器内 , 健診	8	常勤・非常勤
230146	財）潤和リハビリテーション振興財団 潤和会記念病院	宮崎市	内, 神内, 外, 整外, 脳外, リハ, 麻酔, 救急, 緩和ケア	10	常勤
230148	医）コムロ美容外科	宮崎市	美外, 形成外, 外, 麻酔	8	常勤・非常勤
230159	医）常聖会 巴外科内科	宮崎市	内	1	非常勤
230161	医）建心会 滝口内科医院	宮崎市	内	2	常勤・非常勤
230164	宮崎県保健所	宮崎市	公衆衛生	3	常勤
230165	野崎病院健診センター	宮崎市	健診	1	非常勤
160008	医）正立会 黒松病院	都城市	泌	1	非常勤
160010	特医）敬和会 戸嶋病院	都城市	内, 消内 ,整 ,神内	7	常勤・非常勤
160018	医）宏仁会 メディカルシティ東部病院	都城市	内, 救急, 放射, 脳外, 外, 眼 ,透内 ,皮膚	8	常勤
170057	医）清陵会 隅病院	都城市	内, 外, 整	3	常勤
180064	国立病院機構都城病院	都城市	消内, 内, 呼内, 総合内	4	常勤
180081	医）恵心会 永田病院	都城市	精	1	常勤
190092	都城市郡医師会病院	都城市	内, 呼	6	常勤
210114	藤元病院	都城市	精, 内	3	常勤

登録番号	施設名	所在地	募集診療科	求人数	勤務形態
230127	医)倫生会 三州病院	都城市	外,内,整	7	常勤・非常勤
230133	介護老人保健施設すこやか苑	都城市	不問	1	常勤
230137	医)宏仁会 海老原内科	都城市	内	1	常勤
230142	医)魁成会 宮永病院	都城市	内,リハビリ	2	常勤
230153	都城健康サービスセンター	都城市	放,消内,消外,健診	8	常勤・非常勤
230157	医)一誠会 都城新生病院	都城市	精,内	4	常勤・非常勤
230162	藤元総合病院	都城市	内,透,循内,救急,放射,病理,呼吸内,精	16	常勤
160012	医)伸和会 共立病院	延岡市	外,整,放,内	6	常勤
160021	医)建悠会 吉田病院	延岡市	精	3	常勤・非常勤
160034	特医)健寿会 黒木病院	延岡市	外,内,緩ケア	6	常勤・非常勤
160036	医)久康会 平田東九州病院	延岡市	内,外,麻,精,神内,脳神経,老施,心内	5	常勤・非常勤
190086	早田病院	延岡市	内	1	常勤
200100	医)育生会 井上病院	延岡市	産婦,内,小	3	常勤
200102	延岡市医師会病院	延岡市	消内,消外,内	5	常勤
210109	延岡市夜間急病センター	延岡市	内,小	2	非常勤
230151	介護老人保健施設エクセルライフ	延岡市	内	1	常勤
230156	医)中心会 野村病院	延岡市	内,外	2	常勤
230163	堺胃腸科内科クリニック	延岡市	内	1	非常勤
160039	医)誠和会 和田病院	日向市	外,内,整,神内	6	常勤
210111	宮崎県済生会 日向病院	門川町	内	3	常勤
230147	美郷町国民健康保険西郷病院	美郷町	内,整	2	常勤
230152	美郷町国民健康保険南郷診療所	美郷町	内	1	常勤
230160	日向市立東郷病院	東郷町	内	1	常勤
160006	都農町国保病院	都農町	内,放,外	3	常勤
160023	医)宏仁会 海老原総合病院	高鍋町	整,内,総合診療,麻,眼,健診,循,脳	10	常勤・非常勤
160024	医)隆徳会 鶴田病院	西都市	内,外	2	常勤
150002	医)慶明会 おび中央病院	日南市	内	4	常勤・非常勤
150003	医)同仁会 谷口病院	日南市	精	1	常勤
160022	医)愛鍼会 山元病院	日南市	内	2	常勤
160037	医)十善会 県南病院	串間市	精,内(いずれか)	1	常勤
170047	日南市立中部病院	日南市	内,外,整,リハビリ,在宅診療	5	常勤
180071	串間市民病院	串間市	内,外	2	常勤
230138	小玉共立外科	日南市	不問	2	常勤・非常勤
230149	介護老人保健施設おびの里	日南市	内	2	常勤・非常勤
230166	医)秀英会 英医院	串間市	内	1	常勤
160019	医)相愛会 桑原記念病院	小林市	内,整,皮膚	5	常勤・非常勤
170043	医)和芳会 小林中央眼科	小林市	眼	2	常勤・非常勤
180067	小林市立病院	小林市	循,救急,産婦,放,小	10	常勤
180076	医)友愛会 園田病院	小林市	外,循内,整,脳外	9	常勤・非常勤
190090	特医)浩然会 内村病院	小林市	精,内	3	常勤
190091	医)友愛会 野尻中央病院	小林市	整,内	4	常勤・非常勤
230155	医)三和会 池田病院	小林市	脳外,整,麻,内,放射,外	7	常勤・非常勤
170049	五ヶ瀬町国民健康保険病院	五ヶ瀬町	内,外	2	常勤
180070	高千穂町国保病院	高千穂町	内,透	3	常勤
190088	日之影町国保病院	日之影町	内,整	1	常勤

病医院施設の譲渡・賃貸

◆譲渡，賃貸希望の物件を紹介いたします。

平成 26年 10月 16日現在

1．譲渡物件	①　宮崎市阿波岐ヶ原町前田2633番，2634番　＜所有者：児湯医師会員 土地のみ：593.57坪（2022.17㎡）　(医)**桜**雲会 林クリニック＞
2．譲渡又は賃貸物件	②　宮崎市大字本郷南方4071番　＜黒岩医院跡＞ 建物：鉄筋コンクリート２階建（905㎡） ※駐車場：14台分 別途職員専用駐車場有り

ドクターバンク無料職業紹介所利用のご案内

1．取扱範囲は宮崎県内全域です。但し，求職者は県外でも結構です。
2．紹介受付は，月～金の午前９時から12時及び13時から17時です。
3．申込み方法は，所定の用紙「求職票」「求人票」にご記入後登録させていただきます。
4．ご希望に沿った先を斡旋させていただきます。
5．求職者の紹介時には各医療機関で医師免許等のご確認をお願いいたします。
6．斡旋成立時の紹介料は，「求人」「求職」いずれも無料です。

お問合せ先　ドクターバンク無料職業紹介所

〒880-0023 宮崎市和知川原１丁目101番地（宮崎県医師協同組合）
TEL 0985-23-9100(代)・FAX 0985-23-9179
E-mail：isikyou@miyazakimed.or.jp

宮崎県医師会行事予定表

平成26年10月28日現在

11月

1	土	13：00 (日医)日医設立記念医学大会 15：00 日医社会保険指導者講習会復講(TV会議) 16：00 全国医師協同組合連合会通常総会
2	日	全国医師協同組合連合会通常総会
3	月	(文化の日) 8：30 県医親善ゴルフ大会
4	火	15：00 県地域医療支援機構代表者会議 19：00 第20回常任理事協議会
5	水	9：20 九州・沖縄地区医療安全に関するワークショップ 14：00 (日医)都道府県医師会税制担当理事連絡協議会 19：30 女性医師委員会
6	木	13：30 県高齢者サービス総合調整推進会議 18：30 宮崎銀行との懇談会 19：00 県内科医会会誌編集委員会 19：00 県外科医会理事会
7	金	19：00 県外科医会秋期講演会
8	土	10：00 全国学校保健・学校医大会 14：00 宮大創立330記念事業記念交流会館落成式・記念式典・記念祝賀会 16：00 県整形外科医会研修会
9	日	
10	月	19：00 高次脳機能障がい講演会(TV会議) 19：00 広報委員会 19：00 各専門分科医会長会
11	火	19：00 第21回常任理事協議会
12	水	16：00 支払基金幹事会 19：00 県認知症疾患医療センターと県医役員との意見交換会
13	木	13：30 社会保険医療担当者(医科)の個別指導 19：00 産業医研修会 19：00 広報委員会(宮崎の医療を考える会) 19：30 県産婦人科医会常任理事会
14	金	18：10 世界糖尿病デー県庁ライトアップ
15	土	14：00 産業医部会総会・研修会(TV会議)
16	日	10：00 (日医)日医医療事故防止研修会 10：01 宮崎銀行ゴルフコンペ 13：30 世界糖尿病デー市民公開講座
17	月	19：00 介護保険委員会
18	火	15：00 (日医)都道府県医師会長協議会 18：00 治験審査委員会 18：20 医協打合せ会 19：00 第22回常任理事協議会
19	水	18：30 医協会計監査
20	木	14：00 県認知症高齢者グループホーム連絡協議会理事会 15：00 (日医)日医医療秘書認定試験委員会
21	金	16：00 九医連常任委員会 17：10 九医連臨時委員総会
22	土	10：00 九医連委員・九州各県役員合同協議会 13：00 九州医師会総会・医学会
23	日	(勤労感謝の日) 九医連分科会・記念行事
24	月	(振替休日)
25	火	18：00 医協理事会 18：30 第7回全理事協議会 終了後 医協理事・運営委員合同協議会 19：20 各郡市医師会長協議会
26	水	15：00 労災診療指導委員会 19：00 広報委員会
27	木	19：00 病院勤務の医療従事者向け認知症対応力向上研修(TV会議) 19：00 健康スポーツ医学委員会
28	金	18：00 九州地方社会保険医療協議会宮崎部会 18：30 県医監事監査 19：00 日向市東臼杵郡医師会忘年会
29	土	11：30 メディカルトライアングルプロジェクト学生向けセミナー
30	日	

国保審査

社保審査

※都合により，変更になることがあります。

宮崎県医師会行事予定表

平成26年10月28日現在

12月

1	月	19：00　生活習慣病検診従事者研修会（TV会議） 19：00　健康教育委員会 19：00　広報委員会
2	火	18：30　第８回全理事協議会 19：20　県福祉保健部・病院局と県医師会との意見交換会
3	水	19：00　都城市北諸県郡医師会忘年会
4	木	19：00　損保ジャパン日本興亜との懇親会
5	金	15：00　（日医）日医地域医療対策委員会 19：00　勤務医委員会
6	土	13：00　県産婦人科医会新生児蘇生法講習会 15：00　九州学校検診協議会専門委員会 17：00　九州各県学校保健担当理事者会
7	日	14：00　女性医師支援センター事業九州ブロック別会議
8	月	14：00　広域医療搬送訓練研究会 19：00　医師会立看護学校担当理事連絡協議会
9	火	18：00　治験審査委員会 18：20　医協打合せ会 19：00　第23回常任理事協議会
10	水	13：30　（日医）都道府県医師会医事紛争担当理事連絡協議会 16：00　支払基金幹事会
11	木	県外臨床研修病院視察 14：00　産業医研修会 19：00　生活習慣病検診従事者研修会（TV会議） 19：00　延岡市医師会忘年会
12	金	県外臨床研修病院視察

13	土	15：00　日医生涯教育協力講座セミナー（TV会議） 18：00　県産婦人科医会全理事会 18：30　宮崎市郡医師会忘年会
14	日	
15	月	西都市西児湯医師会忘年会
16	火	18：00　医協理事会 18：30　第９回全理事協議会 終了後　医協理事・運営委員合同協議会 19：00　役職員懇談会
17	水	
18	木	19：00　広報委員会
19	金	
20	土	9：00　指導医のための教育ワークショップ 15：00　生活習慣病検診従事者研修会（TV会議）
21	日	8：00　指導医のための教育ワークショップ
22	月	
23	火	（天皇誕生日）
24	水	15：00　労災診療指導委員会 18：00　九州地方社会保険医療協議会宮崎部会
25	木	
26	金	
27	土	
28	日	
29	月	（年末休業）
30	火	（年末休業）
31	水	（年末休業）

国保審査

社保審査

※都合により，変更になることがあります。

日州医事へのご意見・ご感想をお待ちしています

宮崎県医師会広報委員会
E-Mail：genko@miyazakim ed.or.jp
FAX：0985-27-6550
TEL：0985-22-5118

※ 日州医事では，読者の皆様から広くご意見・ご感想・ご要望をお待ちしています。本誌に対するご感想や，読みたい記事のご提案など，忌憚のないご意見を是非お寄せください。

なお，いただいたご意見は「読者の広場」として日州医事上で匿名にて紹介させていただくことがあります。掲載を希望されない場合はその旨お知らせください。

注：FAXの際は，このページを切り取り，
裏面の原稿用紙もご利用になれます。

きりとりせん

宮崎県医師会広報委員会 行　FAX：０９８５-２７-６５５０

お名前：

ご所属：

ＴＥＬ：　　ＦＡＸ：

き り と り せ ん

医　学　会・講　演　会
日本医師会生涯教育講座認定学会

単位：日本医師会生涯教育制度認定単位数，CC：カリキュラムコード（当日，参加証を交付）
がん検診：各種がん検診登録・指定・更新による研修会。（胃・大腸・肺・乳）
※アンダーラインの部分は，変更になったところです。

名称・日時・場所	演題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
江南医療連携の会 特別講演会 11月1日(土) 14：30～16：00 宮日会館	在宅で過ごす人生最後の日々 藤元総合病院在宅医療センター長 馬見塚　勝郎 天寿と延命：人工栄養で生きるということを考える 東京大学人文社会系研究科死生学・応用倫理センター特任准教授　会田　薫子	◇主催 江南医療連携の会 （連絡先） 宮崎江南病院 ☎0985-51-7575	1.5	4
平成26年度日本医師会社保指導者講習会復講 11月1日(土) 15：00～16：30 県医師会館（TV会議：都城・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵）	痛みのマネージメント 潤和会記念病院疼痛・麻酔管理センター長 宇野　武司 宮崎大学医学部附属病院麻酔科講師 田中　信彦 同　整形外科　黒木　修司	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	1.5	60 61
延岡医学会総会学術講演会 11月1日(土) 16：40～19：10 延岡市医師会病院	ドクターヘリに夢を乗せて 宮崎大学医学部附属病院救命救急センター 副センター長　金丸　勝弘 他一般演題	◇主催 延岡医学会 （連絡先） 延岡市医師会 ☎0982-21-1300	2	2 10 62 80

名称・日時・場所	演　題	主催・共催・後援 ※ ＝ 連 絡 先	単位	CC・がん検診
西諸医師会学術講演会 11月５日㈬ 19：00～21：00 ガーデンベルズ小林	小林市認知症支援ネットワークについて 内村病院　戸髙　一成 認知症地域連携 －地域包括ケアシステム構築を含めて－ 平成病院長　坂本　眞一	◇共催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 第一三共㈱	2	13 14 29 68
都城市北諸県郡医師会学術講演会 11月６日㈭ 19：15～20：45 都城ロイヤルホテル	外来高血圧患者におけるアルブミン尿 －宮崎県における実態調査報告と今後の展望－ 宮崎大学医学部血液・血管先端医療学 教授　藤元　昭一	◇共催 ※都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711 大日本住友製薬㈱	1.5	74 76 82
宮崎市郡医師会東諸県班学術講演会 11月６日㈭ 18：30～20：30 綾　酒泉の杜	動脈硬化性疾患予防及び高血圧治療の最新ガイドラインのエッセンス 古賀総合病院長　今村　卓郎 参加費：500円	◇共催 宮崎市郡医師会東諸県班 ※大日本住友製薬㈱ ☎0985-29-5855	1	74 75
南那珂内科会医学会 11月６日㈭ 19：00～20：00 南那珂医師会館	内科医のための認知症治療の留意点 けいめい記念病院副院長　岡原　一德	◇共催 南那珂内科会 ※南那珂医師会 ☎0987-23-3411 第一三共㈱	1	29

名称・日時・場所	演題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
平成26年度宮崎県外科医会秋期講演会 11月7日㈮ 19：00～20：20 県医師会館	外科栄養からNST活動へ －静脈経腸栄養ガイドライン2014を含めて－ 宮崎江南病院長　白尾　一定	◇主催 ※宮崎県外科医会 ☎0985-22-5118	1	1 84
都城地区整形外科医会学術講演会 11月7日㈮ 19：00～20：30 都城ロイヤルホテル	小児整形外科診療のポイント 福岡市立こども病院・感染症センター 整形外科長　髙村　和幸 参加費：1,000円	◇共催 ※都城地区整形外科医会 ☎0986-22-0711 日本臓器製薬㈱	1.5	57 62 72
延岡医学会学術講演会 11月7日㈮ 18：45～20：00 ホテルメリージュ延岡	2型糖尿病治療の新しい流れ 古賀総合病院名誉院長　栗林　忠信	◇共催 延岡医学会 ※協和発酵キリン㈱ ☎0985-22-8801 ◇後援 延岡内科医会	1	73 76
第2回都城地区在宅医療講演会（研修会） 11月7日㈮ 19：00～20：00 ホテル中山荘	地域包括ケアシステム構築と多職種連携 クリニックうしたに院長　牛谷　義秀 他シンポジウム	◇共催 ※都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711 宮崎県医師会	1	14 80

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※ ＝ 連 絡 先	単位	CC・がん検診
宮崎県整形外科医会研修会 11月８日(土) 16：00～18：00 県医師会館	労災審査時のレセプト診断書カルテの問題点 宮崎県医師会労災部会労災診療指導委員 小林　邦雄	◇主催 ※宮崎県整形外科医会 ☎ 0985-22-5118	1	3 7
高次脳機能障がい講演会 11月10日(月) 19：00～21：00 県医師会館(TV会議：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵)	リハビリテーション医療におけるアパシーとその対策 九州労災病院門司メディカルセンター 院長　蜂須賀　研二	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	5 9 29 78
都城市北諸県郡医師会内科医会学術講演会 11月11日(火) 19：00～20：30 都城ロイヤルホテル	排尿障害治療について －BPH かOABをどう診るか？－ 古賀総合病院泌尿器科部長　南口　尚紀	◇共催 ※都城市北諸県郡医師会内科医会 ☎ 0986-22-0711 キッセイ薬品工業㈱	1.5	65 66 67
第92回宮崎市郡医師会心臓病研究会 11月11日(火) 18：45～20：20 宮崎観光ホテル	大動脈弁狭窄症に対する治療 －TAVIの導入による外科治療の今後－ 埼玉医科大学国際医療センター心臓病センター 心臓血管外科診療科長　新浪　博士	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 テルモ㈱	1.5	2 9 15

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
第２回ひむか感染症研究会 11月12日㈬ 19：00～20：30 ホテルベルフォート日向	慢性咳嗽の診療Update 宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学分野 助教　松元　信弘 参加費：500円	◇共催 ひむか感染症研究会 ※大日本住友製薬㈱ ☎0985-29-5855 ◇後援 日向市東臼杵郡医師会 他	1	11 13
宮崎県医師会産業医研修会 11月13日㈭ 19：00～21：00 延岡市職業訓練支援センター	⑶健康管理 職場における糖尿病対策 都城市郡医師会病院副院長　中津留　邦展 生涯研修の専門研修会：２単位	◇共催 宮崎産業保健総合支援センター ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	2	5 11 76 82
第90回江南医療連携の会・症例検討会 11月13日㈭ 19：00～20：30 宮崎江南病院	脛骨pilon骨折の１例 宮崎江南病院整形外科医員　吉田　修子 Ankle blockにて手術を行った重症下肢虚血肢患者の７例 同形成外科医員　赤塚　美保子 最近の胃手術症例 同外科医員　川越　浩輔	◇主催 江南医療連携の会 （連絡先） 宮崎江南病院 ☎0985-51-7575	1.5	53 56
第６回宮崎乾癬研究会 11月13日㈭ 19：30～21：00 宮崎観光ホテル	全身性炎症疾患としての乾癬 －その治療戦略はどうあるべきか－ 三重大学医学部皮膚科学講座 准教授　山中　恵一 参加費：500円（学生無料）	◇共催 宮崎乾癬研究会 ※田辺三菱製薬㈱ ☎0985-32-9205	1.5	2 26 61

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※ ＝ 連 絡 先	単位	CC・がん検診
第１回実地医家のための心エコー図勉強会 11月14日㈮ 19：00～20：30 野村循環器内科クリニック	心エコー図診断についてのレクチャー 宮崎市郡医師会病院検査科長　渡邉　望	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎0985-24-9119 興和創薬㈱	1.5	2 9 15
第41回宮崎大腸肛門疾患研究会 11月14日㈮ 19：00～20：30 宮崎観光ホテル	大腸癌に対する術前化学療法の効果 潤和会記念病院外科部長　佛坂　正幸 炎症性腸疾患に対する外科治療の位置づけ 横浜市立市民病院副病院長　杉田　昭	◇共催 宮崎大腸肛門疾患研究会 ※武田薬品工業㈱ ☎0985-24-6763 天藤製薬㈱	1.5	54 55 大腸
延岡医学会学術講演会 11月14日㈮ 19：00～20：30 ホテルメリージュ延岡	Active Lifeへのおもてなし－喘息編－ 広島アレルギー呼吸器クリニック 院長　保澤　総一郎	◇共催 延岡医学会 県北呼吸器カンファレンス ※グラクソ・スミスクライン㈱ ☎080-1035-5127 ◇後援 延岡内科医会	1.5	45 46 79
宮崎市郡内科医会学術講演会 11月14日㈮ 19：00～20：00 ＭＲＴ-micc	２型糖尿病患者の予後を考えた最適な降圧治療を探る 坂出市立病院糖尿病内科部長　大工原　裕之	◇共催 ※宮崎市郡内科医会 ☎0985-53-3434 第一三共㈱	1	76 84

名称・日時・場所	演題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
宮崎県医師会産業医研修会 11月15日(土) 14：30～18：30 県医師会館(TV会議：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸)	(5)健康保持増進 健康管理，リスク管理，労務管理，経費節約，健保財政改善から考える職場の喫煙対策 産業医科大学産業生態科学研究所 健康開発科学研究室教授　大和　浩 (1)総論 産業医に必要な疫学統計 自治医科大学地域医療学センター 公衆衛生学部門教授　中村　好一 基礎研修の後期研修会，生涯研修の専門研修会：4単位	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	4	3 5 8 11 12 13 82 84
宮崎県内科医会学術講演会 11月15日(土) 17：00～19：00 宮崎市郡医師会病院	心ファブリー病の心エコー図所見 鹿児島大学病院臨床技術部検査部門 水上　尚子 心不全治療でどうトルバプタンを活かしていくか 藤元総合病院副院長　木原　浩一 症例に学ぶ心エコー 国立病院機構鹿児島医療センター 循環器内科　皆越　眞一	◇共催 宮崎県内科医会 宮崎県超音波懇話会 ※大塚製薬㈱ ☎0985-24-2287 ◇後援 宮崎市郡内科医会	1.5	2 11
宮崎市郡内科医会学術講演会 11月18日(火) 19：00～20：00 ホテルスカイタワー	糖尿病治療の新展開 －SGLT2阻害剤をどう使うか－ 帝京大学内科学講座教授　山内　俊一	◇共催 ※宮崎市郡内科医会 ☎0985-53-3434 サノフィ㈱	1	9 76
第7回児湯内科医会学術講演会 11月18日(火) 19：00～20：15 ホテル四季亭	日常診療での血液腫瘍 －いつ血液専門医に相談するか－ 古賀総合病院内科部長　松岡　均	◇共催 ※児湯内科医会 ☎0983-22-1641 児湯医師会 持田製薬㈱	1	25 28

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※ ＝ 連 絡 先	単位	CC・がん検診
第189回宮崎県泌尿器科医会学術講演会 11月20日㈭ 19：00～20：30 宮崎観光ホテル	去勢抵抗性前立腺癌の治療戦略をよみなおす 久留米大学医学部医学科泌尿器科学講座 教授　井川　掌	◇共催 宮崎県泌尿器科医会 武田薬品工業㈱ （連絡先） 宮崎大学医学部泌尿器科 ☎0985-85-2968	1.5	9 15 84
平成26年度第3回大悟病院認知症疾患医療センターかかりつけ医研修会 11月20日㈭ 19：00～20：50 都城市北諸県郡医師会館	日々の認知症について 介護老人保健施設はまゆう施設長 手束　亜希子 大橋クリニック院長　大橋　剛 大悟病院認知症疾患医療センター 加藤　和夫	◇共催 大悟病院認知症疾患医療センター ※都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711	1.5	13 14 29
第58回都城心臓血管懇話会 11月21日㈮ 19：00～20：30 ホテル中山荘	心房細動における抗凝固療法の重要性 宮崎大学医学部循環体液制御学分野 助教　井手口　武史 宮崎における脳外科医と心原性脳塞栓症 宮崎大学医学部脳神経外科分野 講師　横上　聖貴	◇共催 ※都城心臓血管懇話会 ☎0986-22-0711 日本ベーリンガーインゲルハイム㈱	1.5	11 43 78
日向市東臼杵郡医師会学術講演会 11月21日㈮ 19：15～21：00 ホテルベルフォート日向	肥満2型糖尿病をどう治療していくか －SGLT2阻害剤をどう使いこなすか－ 宮崎大学医学部神経呼吸内分泌代謝学分野 助教　上野　浩晶	◇共催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 日向市東臼杵郡内科医会 小野薬品工業㈱ アストラゼネカ㈱	1	75 76

名称・日時・場所	演題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
第190回宮崎県泌尿器科医会学術講演会 11月25日㈫ 18：50～20：30 宮崎観光ホテル	進行性腎細胞癌の治療戦略 －一次治療薬の選択を中心に－ 徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部 泌尿器科学分野教授　金山　博臣	◇共催 宮崎県泌尿器科医会 グラクソ・スミスクライン㈱ （連絡先） 宮崎大学医学部泌尿器科 ☎0985-85-2968	1.5	65 66 67
医療従事者向け認知症対応力向上研修 11月27日㈭ 19：00～20：30 県医師会館（TV会議：都城，延岡，日向，児湯，西都，南那珂，西諸，西臼杵）	医療従事者向け認知症対応力向上研修－基本知識，医療と介護の連携，認知症ケアの原則等（仮）－ 協和病院長　二宮　嘉正	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	1.5	5 13 14
西諸医師会・西諸内科医会合同学術講演会 11月27日㈭ 19：00～21：00 ガーデンベルズ小林	C型肝炎の新しい治療 ひろの内科クリニック院長　弘野　修一	◇共催 ※西諸医師会 ☎0984-23-2113 西諸内科医会 ブリストル・マイヤーズ㈱	2	10 13 14 27
第8回はまゆう整形外科セミナー 11月29日㈯ 17：30～18：30 宮崎観光ホテル	夢の実現へ－骨関節研究を通して－ 宮崎大学医学部整形外科講師　関本　朝久 骨腫瘍の画像所見－x線像と組織像を中心に－ あかえ整形外科医院長　黒木　隆男	◇主催 はまゆう整形外科セミナー （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎0985-85-0986	1	77 84

名称・日時・場所	演　題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
平成26年度宮崎県医師会生活習慣病検診従事者研修会 12月1日(月) 19：00～21：10 県医師会館(TV会議：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸・西臼杵)	肺癌診療の現況 県立宮崎病院外科医長　別府　樹一郎 乳癌検診と診療ガイドラインについて All About Breast乳腺外科クリニック 院長　町田　英一郎 驚異的ABC検診－宮崎市郡医師会胃がんリスク検診(ABC検診)を導入して－ 宮崎市郡医師会成人病検診センター 所長　尾上　耕治 大腸癌治療の最近の動向－症例を中心に－ 潤和会記念病院副院長　岩村　威志	◇共催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県	2	2 11 12 82 肺 乳 胃 大腸
木曜会学術講演会 12月4日(木) 19：15～20：45 都城ロイヤルホテル	喘息治療の今後の方向性と課題 昭和大学医学部呼吸器・アレルギー内科 教授　相良　博典 参加費：500円	◇共催 木曜会 杏林製薬㈱ (連絡先) 都城市北諸県郡医師会 ☎0986-22-0711	1.5	1 46 79
第160回宮崎県眼科医会講習会 12月6日(土) 16：00～20：40 宮崎観光ホテル	糖尿病網膜症と腎症 －日常診断の疑問点から内科的治療戦略まで－ 東京女子医科大学糖尿病センター眼科 助教　亀田　裕介 遺伝性網膜疾患の診療について 名古屋大学医学部附属病院眼科 病院講師　上野　真治 参加費：3,000円(開業医・勤務医) 2,000円(公的医療機関勤務医)	◇主催 ※宮崎県眼科医会 ☎0985-28-1015	2	36

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※ ＝ 連 絡 先	単位	CC・がん検診
第69回宮崎整形外科懇話会 12月６日(土) 18：00～19：00 県医師会館	頻度の高い足部・足関節の障害：病期分類から見た治療の実際 東京警察病院整形外科部長　原口　直樹 参加費：1,000円	◇主催 宮崎県整形外科懇話会 ◇共催 宮崎県整形外科医会 （連絡先） 宮崎大学医学部整形外科 ☎ 0985-85-0986	1	57 61
宮崎市郡外科医会 12月例会 12月８日(月) 19：00～20：00 宮崎観光ホテル	神経内視鏡を使用した脳神経外科手術 宮崎大学医学部脳神経外科学分野 准教授　上原　久生	◇共催 ※宮崎市郡外科医会 ☎ 0985-53-3434 バイエル薬品㈱	1	1 84
第93回宮崎市郡医師会心臓病研究会 12月９日(火) 19：00～20：30 宮崎観光ホテル	動脈硬化，動脈瘤の成り立ちとマクロファージの役割 宮崎大学医学部附属病院第一内科 病棟医長　鶴田　敏博 心血管イベント抑制に向けた高血圧治療 －動脈硬化の新知見とイメージングへの応用－ 徳島大学ヘルスバイオサイエンス研究部 循環器内科学教授　佐田　政隆	◇共催 ※宮崎市郡医師会病院 ☎ 0985-24-9119 トーアエイヨー㈱	1.5	2 9 15
宮崎県医師会産業医研修会 12月11日(木) 14：00～16：00 県医師会館	(4)メンタルヘルス対策 人間関係－自分の境界線－ 都城新生病院　前原　正法 生涯研修の専門研修会：２単位	◇共催 宮崎産業保健総合支援センター ※宮崎県医師会 ☎ 0985-22-5118	2	3 6 8 13

名称・日時・場所	演　題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
平成26年度宮崎県医師会生活習慣病検診従事者研修会 12月11日㈭ 19：00～21：10 県医師会館（TV会議：都城・日向・児湯・西都・西諸）	肺癌診療の現況 県立宮崎病院外科医長　別府　樹一郎 乳癌検診と診療ガイドラインについて All About Breast乳腺外科クリニック 院長　町田　英一郎 驚異的ABC検診－宮崎市郡医師会胃がんリスク検診（ABC検診）を導入して－ 宮崎市郡医師会成人病検診センター 所長　尾上　耕治 大腸癌治療の最近の動向－症例を中心に－ 潤和会記念病院副院長　岩村　威志	◇共催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県	2	2 11 12 82 肺 乳 胃 大腸
日向市東臼杵郡医師会学術講演会 12月12日㈮ 19：15～21：00 ホテルベルフォート日向	脊椎疾患由来の慢性疼痛のアプローチ －病態からみた戦略－ 久留米大学医学部整形外科学教室 講師　山田　圭	◇共催 ※日向市東臼杵郡医師会 ☎0982-52-0222 ヤンセンファーマ㈱ 持田製薬㈱	1	60 61
日医生涯教育協力講座セミナー「かかりつけ医のための泌尿器疾患診療のポイント」 12月13日㈯ 15：00～18：10 県医師会館（TV会議：都城・延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸）	前立腺肥大症・前立腺癌の診断と治療 宮崎大学医学部泌尿器科学分野 教授　賀本　敏行 過活動膀胱の診断と治療 国立長寿医療研究センター 手術・集中治療部長　吉田　正貴 パネルディスカッション：かかりつけ医のための排尿障害診療のポイント	◇共催 日本医師会 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 アステラス製薬㈱	3	2 5 15 65 66 67

名称・日時・場所	演　　題	主催・共催・後援 ※＝連絡先	単位	CC・がん検診
平成26年度宮崎県医師会生活習慣病検診従事者研修会 12月20日(土) 15：00～17：10 県医師会館(TV会議：都城・延岡・児湯・西都・西諸)	肺癌診療の現況 県立宮崎病院外科医長　別府　樹一郎 乳癌検診と診療ガイドラインについて All About Breast乳腺外科クリニック 院長　町田　英一郎 驚異的ABC検診－宮崎市郡医師会胃がんリスク検診(ABC検診)を導入して－ 宮崎市郡医師会成人病検診センター 所長　尾上　耕治 大腸癌治療の最近の動向－症例を中心に－ 潤和会記念病院副院長　岩村　威志	◇共催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118 宮崎県	2	2 11 12 82 肺 乳 胃 大腸
宮崎県医師会産業医研修会 平成27年 1月17日(土) 14：30～18：30 県医師会館(TV会議：延岡・日向・児湯・西都・南那珂・西諸)	(8)有害業務管理 産業医現場における正しい放射線の知識 産業医科大学放射線健康医学教授 岡﨑　龍史 (3)健康管理 産業保健領域における睡眠問題 大分大学医学部公衆衛生・疫学講座 教授　兼板　佳孝 基礎研修の後期研修会，生涯研修の専門研修会：4単位	◇主催 ※宮崎県医師会 ☎0985-22-5118	4	1 3 9 11 12 13 20 84

診療メモ

糖尿病治療薬SGLT2阻害薬について

光川内科医院　光川知宏（みつかわともひろ）

腎臓の糖代謝に対する役割は，糖新生と糖輸送があげられます。糖新生については，腎皮質で行われ，糖新生全体の20%が腎臓で行われるとされています。また，腎臓の糖輸送については，健常人では毎日約180gのブドウ糖が糸球体より濾過され，ほぼ全量が近位尿細管にて再吸収され，尿糖排泄量は0.5g /日以下です。この尿細管でブドウ糖の再吸収を行っているのが，Na^+ /グルコーストランスポーター（SGLT）になります。近位尿細管にはSGLT 1とSGLT 2の２つのSGLTが存在しており，SGLT 2は近位尿細管S 1/2セグメントに局在しており，グルコース輸送のキャパシティが大きく，グルコースとの親和性が低値で，原尿中の大部分のグルコースを再吸収します。一方，SGLT 1はS 3セグメントにあり，低輸送能力，高親和性で，グルコースの再吸収を完全に行います。糖尿病患者では，近位尿細管でのSGLT 2の発現が上昇しており，ブドウ糖の再吸収能が上昇し，糖排泄閾値を上昇させます。このことにより，糖尿病患者では一層血糖値は上昇し，血糖コントロールが悪化すると考えられています。今回，腎臓での糖排泄閾値を下げ，血糖を低下させる目的で，SGLT 2阻害薬が開発されました。歴史的には，1835年にリンゴの木より，SGLT 2阻害薬の原型であるphlorizinが発見され，1886年には尿糖誘発作用が発見されています。1987年には糖尿病動物でphlorizinを投与することにより血糖降下作用，インスリン分泌回復作用，インスリン抵抗性改善作用が報告され，糖尿病治療薬として期待されました。しかし，消化管での吸収が悪く，下痢などの消化器症状の副作用により実用化には至りませんでした。その後，さまざまな改良がおこなわれ，経口吸収性を改善した，長時間作用のSGLT 2阻害薬が開発され，2012年に欧州で世界初のSGLT 2阻害薬dapagliflozinが発売されました。国内でも，数種類のSGLT 2阻害薬が開発され，2014年４月に国内初のipragliflozin（スーグラ®）が上市され，現在５種類６製剤のSGLT 2阻害薬が発売されています（本年末にももう１製剤発売予定です）。

SGLT 2阻害薬の作用機序は，グルコースの尿細管からの再吸収を抑制しグルコースの尿中排泄を高めることで，血糖値を低下させることですが，尿中への大量のブドウ糖放出より，体内では脂肪分解が行われ，体重減少がもたらされます。これらのことより，血糖低下のみならず，糖毒性を軽減して，膵β細胞保護効果やインスリン抵抗性改善効果が期待されます。体重減少については，SGLT 2阻害薬投与により，１日60～80gの尿糖排泄が認められ，１日で200～300kcalのカロリー喪失になり，体重減少がみられます。また，このほかにも，血清中性脂肪の低下やHDLコレステロール上昇作用の脂質改善効果があり，

他にも血圧や血清尿酸値の低下作用が報告されています。SGLT 2阻害薬の糖尿病のコントロール改善効果については，国内の臨床試験結果では，単独投与で0.4～1.0%のHbA 1c低下作用が認められ，他の糖尿病治療薬との併用療法でも，単独投与と同等の効果が示されています。体重減少についても2～3kgの減少が認められ，SGLT 2阻害薬は，経口血糖降下薬で体重減少が証明された唯一の薬剤になります。複数のSGLT 2阻害薬があり，各々でSGLT 2に対する選択性や，血中半減期，タンパク結合率が異なります。臨床効果については薬剤間での差は不明ですが，各薬剤の物理化学的特性や薬物動態が異なることより，それぞれの薬物間で差異があることも考えられます。副作用については，主なものとして，脱水，低血糖，頻尿，尿路感染症，性器感染症や皮疹・紅斑などがあります。脱水については，尿糖排泄増加による浸透圧利尿作用によって尿量が増加し，脱水が起こる可能性があります。SGLT 2阻害薬投与時には適度の水分補給を行うことの指導が必要です。低血糖については，インスリン製剤やSU 剤などのインスリン分泌刺激薬との併用療法で多くみられており，あらかじめインスリンやSU 剤を減量することが必要です。皮疹や紅斑については，重篤な例も含まれており，投与後2週間以内の早期に発症しやすいとされています。治験段階ではほとんど見られなかった副作用ですが，SGLT 2阻害薬新規投与の際には十分な注意が必要です。

SGLT 2阻害薬の保険診療上の適応は2型糖尿病で，単独投与および他の全ての糖尿病治療薬との併用治療が認められています。しかしながら，安全にまた効果が十分に期待できる対象患者は，比較的罹病期間が短い，非高齢の肥満気味の2型糖尿病患者とされています。こうした症例では，血糖コントロールの改善のみならず，体重減少や血圧低下，脂質低下作用などの多面的効果も報告され，メタボリック症候群を合併した2型糖尿病では有効な治療薬となります。一方，やせ気味の高齢者，心血管疾患の既往や腎機能障害を有する患者には慎重投与とされています。高齢者ではサルコペニアをもたらす可能性があり，腎機能障害時にはSGLT 2阻害薬の効果が低下するとされています。本年4月に最初のSGLT 2阻害薬が発売されて半年になりますが，重症の低血糖，脱水，心血管障害が発生しており，また，重篤な薬疹も報告されています。投与開始後30日以内にこれらの副作用が起こる頻度が高く，本剤投与直後は特に副作用に対する注意が喚起されています。SGLT 2阻害薬の適正使用については，日本糖尿病学会より，「SGLT 2阻害薬の適正使用に関するRecommendation」が公表されていますので，ご参照ください。

SGLT 2阻害薬は，その作用機序が従来の糖尿病治療薬と全く異なり，肥満合併2型糖尿病患者の治療には大いに期待されますが，使用経験が乏しく，最適な症例や，併用療法については十分には検証されていません。また，各種SGLT 2阻害薬の国内承認時副作用報告では重篤な副作用はほとんど報告されていませんが，その後の市販後調査・副作用報告では，低血糖，心血管イベントや皮膚障害などの重篤な副作用もあり，今後も本薬剤の投与に際しては十分な配慮が必要だと思います。

宮大医学部学生のページ

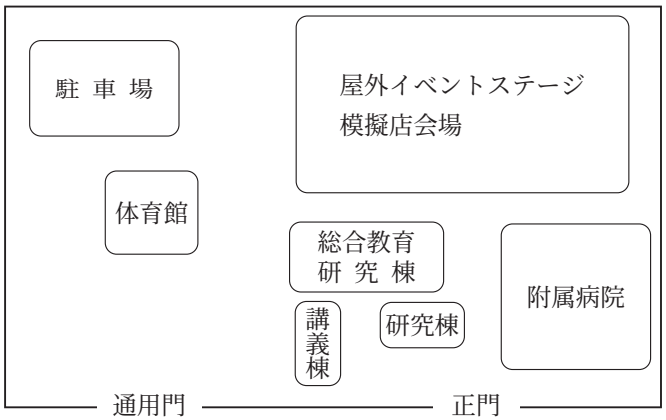
〔宮崎大学学園祭〕第10回清花祭～祭飾絢美～

11月15日(土)・16日(日)開催

清武キャンパスのイベントを一部ご紹介します。
イベント企画は基本的に屋外ステージで基本行いますが，雨天時は全て体育館で行われます。

イベント名 （場　所）	時　間	内　容
11月15日（土）		
ミスキャン （屋外イベントステージ）	10：30～12：00	様々なゲームを勝ち抜いた魅力溢れる清武キャンパスNo.1美女を決定するコンテストです
管打楽器（体育館） すずかけ太鼓（体育館）	13：00～ 14：00～	勇壮で力強い太鼓の演奏をぜひ聴きに来てください!!!
KIZUNA （屋外イベントステージ）	15：00～	学生４人１組のチームで様々なゲームに挑んでもらい，自分たちの絆をより一層深めてもらう企画です。
11月16日（日）		
コンテスト （屋外イベントステージ）	11：00～	大好評!最も美しく，そして勇ましい男の子が決定します!!
子ども企画 （体育館）	12：00～	大学祭に来てくれた子ども達とミニ運動会を開催します。お土産も用意してますよ～♪
LOVE PROJECT	14：00～	数々のゲームを勝ち抜いて，めざせ宮医№1のモテ男・モテ女！

《清武キャンパスマップ》



☆お化け屋敷企画は両日開催しています
（９：00～17：00 講義棟303教室）
怖いだけでなく，ユニークで思わず笑ってしまうようなお化けもいますので，怖いのが苦手といった方も楽しめますよ!!

☆お腹が空いたら…　⇒模擬店会場へ!!
（15日 10：00～17：00
16日 10：00～16：30）
各部活が自慢の料理を提供します。その様子はまるでB級グルメ大会♪
値段もお手ごろで味も抜群です!!

清武キャンパス医学展

《清武キャンパス医学展の一部をご紹介します（15・16日両日開催しています）》

☆憩空間企画

種類豊富なノンアルコールカクテルを提供すると同時に，飲酒や喫煙について考える機会を提供します。また，３年後の自分や家族，友達に手紙が届く“Future Letter”も用意しています。憩いの場として是非ご利用ください。

☆なってみよう企画

聴診器や血圧計などを実際に使って，医師・看護師になってみよう！という企画です。その他にも，アルコールへの強さが分かるアルコールパッチテストや車いす体験などがあります。あなたも医師・看護師に“なってみよう”‼

☆美術展

小さいお子様からご年配の方まで，多くの方が楽しめるような制作活動の場を提供しています。手先を動かし作品を作ることによって，達成感や自己表現，癒しとしての芸術に触れていただきたいと考えています。

☆漢方企画

実は，漢方って身近に存在しています。あなたも数十種類の生薬を見て匂って，漢方の面白さを体験してみませんか⁉無料のお茶も用意しています !!!

☆グローカル企画

スタッフが訪問した国の写真展示やフェアトレード商品の販売，性についての展示を行います。

☆チャリティー企画

一般のご家庭から譲っていただいた不要なものをバザーで出品する企画です。その収益全額をNPO法人に寄付し，世界中の子どもたちのワクチン接種に役立ててもらいます。

☆★☆★スタンプラリー開催‼☆★☆☆

各医学展会場にスタンプラリーを設けております。

全スタンプを制覇すると，ガチャガチャがひけますよ‼

賞品は……おたのしみ !!!!!

◎他にも，様々な企画が用意されています。清花祭の詳しい情報については，
http://kiyokasai.com / をご覧ください。

お知らせ

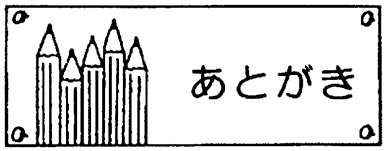
県医師会から各郡市医師会へ送付しました文書についてご案内します。詳細につきましては，会員専用ページをご覧いただくか，所属郡市医師会へお問い合わせください。会員専用ページを見るためにはユーザ名，パスワードが必要ですので，県医師会にお問い合わせください。また，ＭＭＡ通信（県医師会から会員への情報提供メーリングリスト）でも本文書について随時お知らせしていますので，まだご登録されていない会員はぜひご登録をお願いします。県医師会地域医療課（ＴＥＬ　0985-22-5118）までご連絡ください。

送付日	文　書　名
9月16日	・公知申請に係る事前評価が終了した医薬品の保険上の取扱いについて ・使用薬剤の薬価(薬価基準)の一部改正等について ・「医療機器の保険適用について」の一部訂正について ・医療機器の保険適用等について ・公知申請に係る事前評価が終了し，薬事法に基づく承認事項の一部変更承認がなされた医薬品の保険上の取扱いについて
9月17日	・平成26年度地域ケア会議活用推進事業の実施ついて
9月18日	・「結核医療の基準」の一部改正について ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について(通知) ・デング熱の迅速診断検査キットの配布について ・デング熱国内感染事例発生時の対応・対策の手引きについて ・デング熱の国内感染症例について(第十三報)及びデング熱診療ガイドライン(第１版)について
9月19日	・病床機能報告制度専用ホームページの立上げ及び疑義照会窓口の設置等について
9月22日	・日本医師会・日本獣医師会による連携シンポジウム「人と動物の共通感染症を考える－狂犬病の現状と対策－」の開催について ・厚生労働省主催「平成26年度新型インフルエンザの診療と対策に関する研修」の開催について ・「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律施行規則の一部を改正する省令の施行等について」等について ・感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第１項及び第14条第２項に基づく届出の基準等について(一部改正) ・デング熱診療ガイドライン(第１版)について ・「宮崎県感染症発生動向調査事業実施要綱」の一部改正について
9月24日	・「厚生労働大臣が指定する病院の病棟における療養に要する費用の額の算定方法の一部改正等に伴う実施上の留意事項について」の一部改正について ・食事療養標準負担額及び生活療養標準負担額の一部改正について ・「厚生労働大臣が指定する病院の病棟における療養に要する費用の額の算定方法第一項第五号の規定に基づき厚生労働大臣が別に定める患者について」の一部改正について ・デング熱の国内感染症例について(第十四報) ・デング熱の国内感染症例について(第十五報) ・「結核医療の基準」の一部改正について ・病床機能報告制度専用ホームページの立上げ及び疑義照会窓口の設置等について(通知) ・「地域における医療及び介護を総合的に確保するための基本的な方針」の送付について ・平成26年度「新人看護職員研修責任者等合同研修」開催について(ご案内)

送付日	文書名
9月26日	・各がん検診実施機関等登録(指定)名簿について(送付)
9月29日	・「使用上の注意」の改訂について ・「公害健康被害の補償等に関する法律の規定による診療報酬の額の算定方法における肺炎球菌ワクチンの取扱いについて」の一部改正について
9月30日	・「地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律」に基づく都道府県計画及び地域医療介護総合確保基金について ・平成26年度「津波防災の日」について ・平成26年度院内感染対策講習会について (通知) ・院内感染対策サーベイランス事業 (JANIS)に係る参加医療機関の募集について ・平成26年度感染症流行予測調査における日本脳炎感染源調査結果について(送付) ・デング熱の国内感染症例について(第十六～十九報)及び代々木公園周辺以外の場所におけるデング熱の国内感染症例について ・デング熱の国内感染症例について(第二十報)
10月2日	・福岡県医師会第12回「卒後臨床研修指導医ワークショップ」の開催について ・個人情報保護法等の遵守に関する周知徹底について(通知) ・東日本大震災に関連する診療報酬の特例取扱いの期間延長等について ・医療扶助における転院を行う場合の対応について
10月3日	・デング熱の国内感染症例について(第二十一報) ・ヒトパピローマウイルス感染症の定期接種に関するリーフレットについて ・デング熱の国内感染症例について(第二十二報) ・「定期の予防接種等による副反応の報告等の取扱いについて」の一部改正について ・野崎病院認知症疾患医療センターが主催する市民向け認知症講演会に関する周知について(依頼) ・(記者発表)結核の集団発生がありました ・「定期の予防接種等による副反応の報告等の取扱いについて」の一部改正について ・「地域における医療及び介護の総合的な確保を推進するための関係法律の整備等に関する法律」の一部の施行について(通知) ・「病原微生物検出情報」の送付について ・厚生労働省「「持分なし医療法人」への移行に関する手引書」について ・「介護給付費請求書等の記載要領について」等の一部改正について ・難病患者に対する新たな医療費助成制度に係る関係資料のご送付について ・デング熱の国内感染症例について(第二十三報)
10月7日	・「医療安全支援センター実践研修」の案内について(通知)
10月9日	・国民生活センター「医師からの事故情報受付窓口」開設について

あなたできますか？（解答）

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
e	a，c	a，d	c，e	a	b	e	e	e	c



二足のわらじのお話

20世紀中の開発は困難といわれた，青色発光ダイオード（LED）の開発により，３人の日本人研究者がノーベル物理学賞を受賞しました。まさに日本の誇りです。青色LED開発の経緯ですが，最初に赤崎勇教授（85）が窒素ガリウムの研究でLEDの技術基盤を確立。天野浩教授（54）が引き続き高品質結晶を作製。最後に中村修二教授（60）が初めて製品化しました。多くのノーベル賞は発見者や開発の基礎を確立した研究者のみが受賞されていますが，今回は研究にかかわった３人すべてが受賞しています。その理由は，この３人の研究が，青色LEDの発見・発展・実用化を実現し，人類の発展に貢献したことによると思います。時代はさかのぼりますが，「脚気予防に貢献したビタミンB 1の発見者たち」として，最初に，わが宮崎が誇る大偉人こと高木兼寛先生が脚気患者の臨床疫学を報告しました。次にリスチャン・エイクマン，フレデリック・ホプキンスがビタミンBの存在を予測し，最後に鈴木梅太郎がオリザニンを発見しました。当然４名のノーベル賞か？と思いますが，実際は日本人以外の二人が受賞しました。

今年受賞した日本人は３人とも現場での実務経験があり，実技と研究力のバランスがよかったことがこのような偉業につながったのかもしれませんね。私たちの仕事にもあてはまるかもしれません。二足のわらじを履きながら，気楽に，バランスよく，偏らず，ハーモニーを奏でながら生きていきましょう。（^^♪♪

（上園）

＊　＊　＊　＊　＊

あれだけの被害を目の当たりにしながら，それでも原発再稼働に賛成するというのは私には理解できません。そもそも絶対に安全だというなら避難訓練もヨウ素剤の配布も必要ないはず。規制委員会の田中委員長自身が，基準に適合していると言っただけで安全だとは言っていない，という始末。良識ある住民が不安になるのもうなずけます。電力が足りないというのなら太陽光発電にストップをかけるのはなぜなのでしょう。矛盾だらけの原発再稼働はやはり反対です。　（上野）

＊　＊　＊

朝夕の寒暖の差が強くなってきました。皆様いかがお過ごしでしょうか？

台風以降気候が落ち着いたせいか更年期障害を持つ患者さんも症状が軽くなってきている方が多いようです。妊婦さんは健診時の「体重注意」印鑑を押す回数が増えています。私はメタボ健診で引っかかり，保健指導を受けました。週一ですがジムに通い始めました。半年後はすっきりした体でいたいものです。

（釜付）

＊　＊　＊

芸術の秋真っ盛りのある日，日本人が作ったパイプオルガンとしては日本一のものがあるアイザックスターンホールの見学に行きました。県民の要請で１億9,000万円かけて出来たホールの超目玉で，4,047本のパイプから出るオルガンの圧倒的な音色は，残響時間約２秒と世界で10本の指に入ると言われる，このホールの「十分な音量」と「豊かな響き」を体感でき，演奏されたバッハの宗教音楽を聴き，しばし荘厳な気持ちになれました。隠れた宮崎の宝発見でした。この秋，気づいていないすばらしいものを体験してみませんか。　（篠原）

＊　＊　＊

10月23日に平成26年度の医師臨床研修マッチング結果が発表されました。本県では昨年から10名増の55名がマッチし，医師としての第一歩を宮崎で踏み出すことになりました。この数字をどう捉えるかは様々な意見があると思いますが，研修医の数にだけこだわるのではなく，長きにわたって医師として活躍できる人材を育てる環境を整備することの方が重要だと考えます。そのために臨床研修指定病院の先生方をはじめ，様々な方が日夜奔走されているのを目にします。研修医・学生も期待に応えられるよう，努力せねばなりませんね。　（原尾）

＊　＊　＊

母がアロマオイルに凝っていた影響からか，いい香りのするものが好きです。花の香りのハンドクリームや柔軟剤は思わず手にとってしまいます。

これまで不思議だったのは，雨が降る前に感じる匂いでした。調べてみたところ，植物の発するペトリコールという化学物質が湿度の上昇に伴い鉄と反応する際に出る匂いが，雨のそれだそうです。

天気や季節の変化を鼻でも感じられることは楽しいことですね。　（上條）

＊　＊　＊

毎年，医師会が大学・県と共に開催している「医学生・研修医をサポートするための会」，今年は医師から学生さんへメッセージを伝えるだけでなく，学生さんと現役若手医師が小グループで将来のキャリアについて自由に語り合えるグループディスカッションも取り入れて，11月29日にホテルJALシティ宮崎で開催します。題して『ドクターズキャリアカフェ～はじめのいっぽ～』。学生さんたちが長いスパンでの医師人生を考えるきっかけになればと考えています。　（荒木）

＊　＊　＊

今月のトピックス

日州医談　病床機能報告制度と地域医療ビジョンについて

大変に難しい問題です。地域の病床を高度急性期，急性期，回復期，慢性期の四つに分類し，それぞれの必要量を定めていくというと，一見合理的に思えます。しかし，どこまでが必要量なのかの判断を国のガイドライン任せにすると，総額が先にありきで，ただ安上がりだけの医療に再編される恐れはないのでしょうか。日医が言うところの「(国の)ガイドラインはあくまで目安とし，地域の実情がしっかりと反映されることを優先すべし」という主張が説得力を持ちます。池井義彦常任理事に寄稿していただきました。ぜひご一読を。

4ページ

診療メモ　糖尿病治療薬SGLT2阻害薬について

腎からの糖排泄閾値を下げ，ますます尿糖を増やすことにより血糖を減らそうという，従来とは違う発想の糖尿病治療薬が話題を呼んでいます。この薬剤の原型はすでに1835年にはリンゴの木から発見されていたというから驚きモモの木です。尿中への大量のブドウ糖放出により，体内では脂肪分解が行われ体重減少までもたらされるほか，血糖低下のみならず糖毒性を軽減して膵β細胞保護効果やインスリン抵抗性改善効果も期待できるそうです。さらに中性脂肪の低下やHDLの上昇などの脂質改善効果，血圧や尿酸値の低下作用も報告されているというから，早速にでも試してみたいところですが，市販後調査では重症の低血糖や脱水，心血管障害，重篤な薬疹などが報告されているそうです。新薬ゆえの慎重さも必要のようです。光川知宏先生の解説です。

66ページ

日　州　医　事　第783号（平成26年11月号）（毎月1回10日発行）
発行人　公益社団法人　宮　崎　県　医　師　会
〒880-0023　宮崎市和知川原1丁目101番地　TEL 0985-22-5118(代)・FAX 27-6550
http://www.miyazakimed.or.jp/　E-mail:office@miyazakimed.or.jp
代表者　河　野　雅　行
編　集　宮崎県医師会広報委員会
委　員　長　上野　満・副委員長　釜付　弘志，沖田　和久
委　員　篠原　立大，上園　繁弘，原尾　拓朗，上條　苑子
大野　妙子，西田　隆昭，岡本健太郎，川上　勲，枝元　真人
担当副会長　富田　雄二・担当理事　荒木　早苗，佐々木　究
事　務　局　学術広報課　瀬戸山千春，久永　夏樹
印刷所　有限会社 ケイ・プロデュース●落丁・乱丁の際はお取り替えいたします。
定　価　350円（但し，県医師会員の講読料は会費に含めて徴収してあります）